明治六年癸酉新著

路加傳福音書

東國宇院城阿度留布保流都方前版摺屋藏活字

Japan. S. Luke.
1873.

ろうのよろこびおどれとつよのそうめい

一節 けぶ〜おわきんのりこれらがうちきんわそうとせるのことをのそつ〜くのこそる〜。二そのむじめよりそそ〜くこそそうそそこそうをお〜るのものこれらよつてさくさるをわりよせんとする。三ゆんよこれもきさむじめよりこそかきふくさをりさりつ〜ちくうんぢふうをきておひろようんとさるをよ〜とおめひそ。四うんぢがきるぶさそうのそうとそ〜めん。五へうでよてやすのときのびやのつぶねよぞくさるきりつうさのり名へざうもやそのつまのろんぐのとくさ名へいもさべ。六ふさりぢのめくぜんよのりてぎうるのうりわ〜のいまーのとれへがうとよそうさびひそせのるそうそ〜。七いもさべへうまびめさりふさり

もゝ〳〵あるよりて子ゆゑ。八まく〳〵ざうもやそのつゝねの
しゞよりて弟のまくよりまりつゝのちくぶんとるもきへ。
九まりつゝのぞくよりそゝぐひてゑちをとりて。わ〳〵のてらよりして
わわひとやくとをゑる。十わひとやくのひぐさまゑわろよ
りていの。
十一わ〳〵のゆまつゝひかゞれてゐうさへのゑぎりよゐろ。十二ざうもや
これをゑそさゐぎあそる。十三天のつゝひのいたくざうもやあそること
ゐれゐんぢがいのりもぐよきゐれてゐんぢがつまいもさべおもをを
うゝてゐんぢゐれが名とよむんとよゐんと也。十四ゐんぢよゐゝびこのゝゝて
おわき人をのうまれるとよゐゝゑんと也。十五よりて わ〳〵のゆくぜん
よのりてゐれをさおわひゐりとゝてぶぐゐろとさけとのまび

もくのもゝよりゐゝて ゐゐろ ゐて 聖弟ふゐちて。十六おわくのいもゐらゐも
が子ぐもとゝてゝんじてわ〳〵よもゐもちその弟よくゝ〳〵めんと也。
十七れもゐいもやゲ弟ゐくとゆゝそわ〳〵のまくよさきぐゐておやの
ゐゐろと子ぐもよさゐのゆをゐもそざゐるゆゆぐさへちよくゝて
わ〳〵のゐろよゐいもるゐゝをゐあゐゝ〳〵む。
十八ざゐもやハ天のつゝひよいゐて いもくゐれ もぐよ ゐゐ〳〵て
つまもゝ〳〵ひゐりいゐよ〳〵てそのくあゐび ゐるとゐるや。十九天の
つゝひのゐゝそ いもくゐれハいま〳〵がべゲく弟のゆくぜんよ
ゐゐいまつゝひとうけてゐんぢよひのおとびれとゝとのりせ
〳〵む。二十ゐゐくゐるとのゐゐゐゐゐるのゐよいゐるまでゐんぢくゐゐび
おわ〳〵よゐそのゆよとのゐんび ゐんぢゐゐびそのゐゐゐる〳〵よゐゐん

とをるとびとをんぜざるよりてり。

二十一　さざりもやとまちてそのてらうちにくかどひさ〳〵をるとめげ〳〵とを。二十二いげるよりおうびてくれらよくさるとのさんびをわのくそてまねきさるゆよそのてらうちよりのぐんれるところをんさるとある。二十三ちちくぶんをる日まちてちちうそりへよくさる。二十四のちくれがつまいもざべむふぐをてちげくよくさるとあくとあり月りんくわ〳〵二十五されをんるふとき八されよりわざをもとくくのでゝ人のをんうけるところのあるぐりとのぞけさり。

二十六ぶん六ヶ月よ天のつゝひがべやく非のつゝひをうけてがやくのなざれのむふよゆきて。二十七ひとりのぎうぢうよのぞをて名八まもやぐひでがいちぞくよせふとりのよをんぐをせる。二十八天の

つゝひのをををていりていんくいさりてめげまるくのあんをよきと

二十九わ〳〵をんぢとさすけそのろ〳〵くのあんをんうちをんぢさゝんひのるゝを。

三十まもやそれをんそそのとををやすんぜび〳〵てその八びのんとをゝ八をんの名へそやとあり。

三十一天のつゝひのいんくまもやゝあぐろくとをされをんぢ非のあんとを名さり。三十二あんゝゝるをんぢをまさをもふぐをををすをををををとをををんとを。三十三れもをあひよあをりてぐくをろきめくすをとよををくるわ〳〵非をれせんそのぐのでがんぐひとめそゝれよのくをんとを名をへ〳〵三十五よやこべがいちぞ家をつゝをぐりてゝれがんよををんまりをー。

三十四まもや天のつゝひよいんくをれいまぐあをとよてきせびいゝよ〳〵てんをるや。三十五天のつゝひのいんくを聖非まをよをんぢよ

ぶりてでくさろきのかちろうんぢがうんなをめそうん
ぢよ　うまれんと　ちる　聖　うる　のの　神の　ひすと　ちるれんと　せ。
三十六　くろうんぢが　ちん　せきいせさべ　も　まさ　ねて　ちろも　ひすと　ちろでむ
のとようう　まび　女と　ちる　人　ぞもいち　ちぞよ　六ヶ月　うる。四十七　けぐ〜　神へ
三十八　のさんびといよ　ヨ　ヨ〜。三十八　よせやが　いんく　ねう〜の　つろれ　ねんなそよ
のり　うん　ぢふいが　ぢく　ろれよ　うれ　よ。天の　つろへ　つひよ　くれ
ようさる。
三十九　その　ちきよせやちゆろ　ろ〜いちぎやま　ぐふ　ゆきそよてやの　ひとむら
四十　よいろて。ざうせやが　いんよりて　いせさべの　ひんと　よ。四十一　いせさべ
へよせやが　ひんと　ちよと　きて　ちるたち　ちうちの　子　ねどりて
いせさべも　聖　神　ふちろ。四十二　ろきそ〜てよびて　いんく　のろ〜

のねんなのうち　うんぢ　さろんひ　のり　うんぢが　ちろ　うれ　子　ちきと
さろんひ　のり。四十三　ねが〜の　ちい　ろれよつ　へ　うんそれを　それを　ちるや。
四十四　けぐ〜　うんぢが　ひんと　ちよのそ　ねぐ　ちく　ふひ　ぐきて　ちるあ　ちう　ちう
うちの　子　ろろ　ぐて　ねどり　ろう。四十五　うんぢ　ねが〜の　そ　ぐろ　ぶび　ねろ　ちる
と　ちん　じて　ちるち　さろんひ　のり。
四十六　よせやが　いんく　ねぐ　たま〜ひ　ねが〜と　ねひと　ち。四十七　ねぐ　たま〜ひへ
ろれを　ちろふの　神と　ろろぶ。四十八　れつ　ろれ　ねんなのいや〜　きうを
ろう　ねて　今　ようの　ち　万　世　ろれを　さろんひ　ある　のれ　といよ。四十九　その
いせへのるとのそ　ねぐ　さろよ　ねひうる　ヨを　ろ〜てその　名　ぐ　聖。
五十　れを　ねそるのへこれをのれそて　世　世　ようる。五十一　そのうぐ　ろひを
のそちろとのぐ〜てそる　のれへそのそろのうぶよそて

これをちふもの。五十二いきわひゐるものハそのくぶんようこれをあとをもげひんのものハこれをのげる。五十三うまるものハうまるときのものをのべてこれをのろもさきのものハこれをはぶ〜くくべせん。五十四それのたれをもあがあいぶ〜てもんゐいもら及もへこれをさしける。五十五それはろ〜ゆげもんゐをゆまもとのりもるがぶくのべらもんとゆそんとゆ世世ゆいくる。五十六まもやまもゆもまゆ。と三ゐ月ゆまもそもろうもそくる。五十七いもさべがさん月まるゆあうびてはすをうむ。五十八まうりの人もんせきとゆ〜のあわひゆゐれをいたれをくるときてあるべくこの〜むゐ。五十九八日とそそまゐまぶりでをくんをきるれへもるゐがくあるゆきうりてそのちくの名ざゐもやとのべてこれをゐづけんとわゐも。六十そのもくのいあくゐよもんとゐぶくべ。六十一まゐいもんくもんせきのゐゐ名をつけるのれゐ〜。六十二ひゆちやゆまれきしてゐゆの名をつけんとゆ。六十三ちくんぶんをのもあてゐきてよもんとゆ。六十四まゐこれをめぶ〜とも。六十五ちまちくちひゐきもきものれいひそ非をわゐうり。六十六くもゐむゐれ人まゐあるゐ上のまわくよてやのやゆぶゆきまゐ。六十七きくのれまるこれをゆゆゆくて〜ていたくゐ上ゐんべいろゆとゐ〜んとゐるや。六十八ゐゐ〜これをまぶすけゆも。六十九それ父ぶゐもや聖非ゆうんじてのゐゐじめゆいひそいたくゐゐいもら及もがゐ非さのもんひゐるくゐそれゐきをくゐうまもそもろうもそこれをくゐのぶも。七十これをゲゐゆ。七十一ゐゐのもゐのれとのげてそれ非下ゲぶひでゲいゐゆあそ。七十二せくゐのもゐめより あのれゲ聖ゐるさきもるのれ ものくちをのそいひゐるきをり。七十三これらをもゐんてきゐ人これらをゆゐむ

のべ、まようのごとしむ。[七十二]われらゲせんをよのたれをとわざこゝあのれゲ聖をるやくそくと名ゆゑ。[七十三]をるたちわれらゲせんをのべらむんよちひ、をるをそれちひ。[七十四]いんゆるてきまようのごとされてのとおそるをとをく〳〵てわれらゐ〳〵よつよまりて。[七十五]いのちとをそんるまでのれおくとのまくよのりてそろをつ〳〵そぎとのてせん。[七十六]をんぢもわれゲおすとをさごくそろきのの、さきをるのれとをるたれんとをゐ〳〵のめんぜんのりてさきだちゆきのてくれをまちをそをりて。[七十七]そをよそ〳〵てをそ、をそ、ををそ、をるたちそれつををゆるをよのり。[七十八]われらゲ弗のめぐられそろをのてをるこれのてきとのろくきうくより[七十九]われらよのごむ。[八十]ぶきよをまちひ孔をるゲよをるのれへひろりとのてそれをてくをわれらのををへのんのをちよをまちびく。

八十　くろ[八十一]をんべやうやくちやうをそせへをんくくくをそのれちよをまよとい[八十二]をらををよのごんるれ日よりよるををとのゝ〳〵てんくよををとのゝ〳〵てんくよ

第二章　一節　それをきゝをされのをどをとてんくよををとのゝ〳〵てんくよ

ゐゞよ名をくきをるせよと。[一]くれゐゞよくきをるゐくけをれよ

それやのぶぎやうをるをきをゞじゐてををゐる。[二]をる名をくきをる

をよゆきてをの〳〵りんゆゝよくる。[三]よせふちまゞごひでゞゐのちぞくのろりをるよよてゞやきのをされのゆゝよをりてよてやよりゝりてゞひでゞゆゝよをくるる名へべれて。[五]をんゞをせゝるつまとをのよ名ゞきをるをされんと。[六]をきよをやをゝぶゞむ。[七]をまゝ〳〵くゝをよをるをきをさん月をゞよをまるよゐゝびて。[八]つひよちやゝ〳〵をゝをつゝむよをまくゐれをとのそ〳〵てやどやのゐきよるきよよてゆをれ

むんめさしよこれをときさう。

八 それちくさくびとのり夜八はひとりひつぢとはよぢんしまのる。

九 さちまちよわしの天のつくひこれらよくぶりてわしのあへぐへくさき

てるくひびとへおわひよおどろく。天のつくひのいたくおどろくと

ゆれはれゆんぢしよよろしきおとづれをつげるへのろしのさきよ

おわひゆるよろこびよくるのれゆうり。十一 こんあちぐひてぐはひよのりて

ゆんぢしぐさうよ七文わしかれとうまれさう。十二 ゆんぢしまさよ

きどりゆまくわれあてつまれはむんめさしよをくとを

ひるへこれそれとれまるしさり。十三 あんくよ天のいさおわきとのりて

それ天のつくひとのよ弟とおりていたく。十四 いさりてうへさうり弟

よくれよ地よおりてへ六六人へへおんさく。

十五 天のつくひぞも天よはおりてさるはちくひびとのひつぢていたく

ゆれしまぐべれ六よゆきてくれわしゆれしよりさうとのまし

おくれとをまる。十六 いたきゆきてはまやとよせふとまどりぢへはさ

まてはまれむんめさしよをくとをまる。十七 ちぐよひて ちゆんちぢ

まどりぐよつきていたれさるとをのまわくまし。十八 さくのれへ

まよくひびよいたれさるとよつきてめぐしさり。十九 はまやへこれ

とをのそぞんまてくまぐくまくよりのよ。二十 くひのれへひさく

さまくへとくいたれさるまをりさるよりてを弟をさうりくやし

てわわさりまうまてくる。

二十一 八日ちぐよまるまぐりぐをくへさるれへしてを名へ五七とよ五

ちゆんちいまぐむしぐまぐるまき天のつくひゆげぐれさるまをり。

二十二 それきれんにまる日もせがわうのさをりまぐるまそべまどりぐをひぐき
て及るされんまはがりてこれをわ〜まはけんぎ。二十三わ〜のわうまくき
るるもぐどくおまをむじめむぶれ男子うまぐべわ〜の聖まる
のれとまう。二十四きさゆまぐとっぷさんのるひんいんぐとの子をさろきりまり
けんぎるるまとぐくわ〜のわうまりふぐど〜。
二十五及るされんまんのりて名へもめんそれんぎのりてろつまを
のとりいもら及もがまぐさわるとまう聖非ときとれまり
はぐぢ。二十六聖非より くれまのくをきれていまぐ及まるまおうをべ
をそくるぐべわ〜のくれもとをる。二十七ときに非まんぐてをまる
もをむまく〜及もの父母へ子をいぐきていりてわうまをぐひて
くれれまるおうるるんとわう世べ。二十八めんそれ子をいぐきて非を

いまひわのていんく。二十九今わ〜のいふぐどくがくとやすんぐてゆっ〜
めわっく。三十日ぐ月もまふのれをるるまるよって もまたち三十一うんぢの
ぐんまんのめんぜんまそまくまをひまりわれまぐぐまるまりて
三十二うんぢのいもら及もまれまりとまるのれまり。
三十三よせふと及もの をとくれまつまそいたををめぐ〜とも。
三十四もめんくれまりといんひそ及もの をまもやまいひそいたくるたう
くまは子まそまれていもら及もまれおくまをれおるまくりて
三十五まるのまもと〜。三十六おわくの人のおめひをのふた〜うんぢのまろを
もくまるゆそさ〜てはくぐどくまはも。
三十七めんまおんまのりての世をぐうまれふとのもぐわすのさきまるのれ
うりも〜むまんぐおれまりくまるまろよりおととまるまるまと

七年。ゆもめとりて八十よ年てらよりもあれば人氏やそいのり
てひるよる非よつよまる。その時きよ時てゆ〜よのり
ぐ〜くもあるされんのうちよ人氏のどもてをはそ氏のものもみ子
とのひろんぼ。
あそのの父母ゆ〜のかろのもをりてをくあるひそてより、ときやう
が氏のねざれよ人る。日ぶんべへぶんぐよちやう〜じてたる〜し
ん〜くしてさんちまちて非のあんとくある。
きへねんもぎこゆるせろくよそのやあるされんよはりて。あそ
ど〜十二てこのせろくのぞくよもぶひてまるあるされんよはる
ぐり三そ〜ろろ三そ人るときその子あそへうれあるされんよ
ぶまるそのもとよ世ふとちぶ。人ふぶつれびとのうちよのると

あるのよ一日のまちをゆくよあうびていま〜ちんせきかうゆのうちよ
ぶれさ。のんび〜てもるたちあるされんよ人りてこれをとぶね。
三日はちてぶよのふせんせんのうちよざ〜、ろきろさ。きく
ののまる人れのそうめんそさ人とよくもるこをめぶ〜とも。ふさ
やあそろろ三そこれをのやーむそのをのいたくはげ子うんを
はれを〜てくくのどくうぶ〜なるや。あうろるうんちゲ火とはれ
とうれふるそろ〜てうんぢをとぶね。あそのいたくうんをはれを
ぶるこをせんのよはれちのところよのるべきこをそぶざんや。
ふさやあれのいひるこをさぶ。あそとも人ぶりてなされ
よいろりて火母ようけもぶそのをのろくはこをのそ
そろよとる。あそさんちとと〜ねどとひぶよき〜非とろと

きもく〳〵それをのべは。

第三章　一節　ゥ友されてべきう　ゥ〻ひよ

よてやのぶぎやうとりへうでハゲ　ゆのあうそうそれ　きやうぶび

ひとびいハいとやとてらこれてちくとのあうそうさされやハ

のべそれのあうそう。[二]のんなとうやふハとハあれきりつうさる

きき非のとべざうとやゲおすとよむよのれちよのりてゲぶる。

いきゝよ友れさんのうとちうさよきうてゲやこのふあののふ

れへとつふへつをゆうきのさあ。[四]さきるいさやゲあうのつよ

うきあるきのどくいんくのれちよのりてよふのくえよいきく

ゆゝのきちをそのそれときちをうをきよきう。[五]さよどうゲび

きくされみどのりどひきよゝくきゲるきうきゲゆゝけんそれ

きちさひぶうゆうきされん。[六]おうそゆくのるのれハ非のきうひを

ゆふらんとき。

[七]きかいゲのらふれへとうけらんとき。よむんのいたくぶくあのるハう

これうよんちうよあゝてきくらんときるのいうりをさけらゝのさる

や。[八]ゆうよゲやきよやうゲさるゲのれをおすなせよ。[九]ゲうら

のべらむんよれうゲせんをさるとおふとうれ。よれうんちうよ

つげん非よくみりゝとおゝてのべらむんがゝそんとうきゝゝか。

[九]今ものれハうあきれねよをくうあきどよきゲぶのをおさぶぶる

のハきうあちこれをきりてひようゲる。

[十]きるとひていたくきうゲよれうきうゆをうきゲべきや。[十一]いたくふうのう

ところのるのハきうあちこところのるきのようちうそのるのハ

きさくのごくようせよ。十二ぎやくにんもきさうてのゝよれんせゝぶれんと
ゝもそひそいたくせんせんにまれゝるまをもきまるや。十三いたくさざあの
わろへさんそくとまれ。十四つゝのものもきさそひていたくまれゝるまを
ゝべきまるや。いたくそひて人まおまをまるいたりて人を
うゝくさんゝるまるのゝそろのちんぎんゆてそれよ。
十五さゝゝまるゝれゝゝとをはぞゝきちてそろまよゝたんそれゝやゝあやを
うくぶゝきへ。十六よゝたんがのろ〳〵まいひていたくまれへまづゆて
まんぢゝとのゝふれのゝゝまれいきわひきまるのものきさうて
そのゝろのゝそくくまれゝくゝらべくれきまるゆてひゆて
まんぢゝとのゝふれのゝゝ。十七くれのまるまをまのりてそのゆへとさまうゆてひぎを
ひゝろひて〻ゝらまいれて〻ゝわゝとけされざるのひまやく。十八よゝたんきさ

べゝうおわきゝゝとのゝて ゝきゝゝて よゝろゝべ おゝべれをのゝて ゝきゝゝまる
ひゝぶ。十九〻ぶゝろゝうへゝろてきやゝうぶべひてぴいげゝまへゝろてやゝげゝと
おゝうべべゝうまひぶゝうゝきるのゆまよゝたんませゝられて。二十のゝろ〳〵の
うゝきゝひゝべゝうのくゝとゝきゝてゝよゝきゝんゝとゝらゝうやまゝこゝる。
二十一のゝろ〳〵のゝゝきゝのゝふゝれゝのゝとゝうけるのゝはゝちゝまゝ〳〵 ゝゝそゝきゝのゝふゝれゝ
せゝふゝれていのるゝきゝ天ひゝらゝき。二十二ゝゝ彼ゝれのゝうゝまはゝぞゝゆゝへゝきゝゝゝまゝと
のゝぶゝくまゝ〳〵て天ゝうゝてゝのゝてゝいゝたゝくゝまゝんゝちゝいゝまゝ〳〵ゝまゝぶゝのゝへゝきゝるのの
ゆゝすゝとゝまゝゝゝうゝゝゝよゝゝろゝゝべゝよゝゝろゝゝぶゝゝきゝゝろゝのゝのゝまゝり。二十三ゝゝゝそゝゝとゝ〳〵ゝいゝまゝゝきゝゝゝのゝ
三十年人おゝのゝぶゝくゝへゝよゝせゝふゝがゝゆゝすゝとゝるゝとゝくゝれゝへゝゝゝいゝげゝ。二十四くれ
へゝまゝゝろゝとゝげゝくれゝへゝれゝひゝいゝげゝくれゝへゝめゝけゝいゝげゝくれゝへゝやゝんゝなゝのゝげゝくれゝへ
よゝせゝふゝが。二十五くれゝへゝまゝゝてゝやゝのゝげゝくれゝへゝのゝもゝきゝげゝくれゝへゝなゝきゝんゝがゝくれ

ハ　ゑをもゲクれハ　ゑがいゲ。クれハ　二十六
まのとゲクれハ　まさてやゆゲ
クれハ　せまゑゲクれハよせふゲクれハ　よゲぬが。クれハ　二十七
よめんゑがクれ
ハ　ねさゲクれハをろゾべゲクれハ　さらてもゲクれハれれいゲクれハ　二十八
めけゲクれハのてゲクれハとさんゲクれハ　ゑもゲんゲクれハ　ゑろゲ。
クれハよせゲクれハ　ゑてぎろゲクれハよれんゲクれハ　まさろとゲ
クれハれひいゲ。クれハをめんゲクれハよゲぬゲクれハよせふゲクれ
ハよゑんゲクれハ　ゑてやけんゲ。クれハめれめゲクれハめゑんゲクれ
ハまさゲクれハ　ゑさんゲクれハぐひてゲクれハ　ゑせゲクれハかべて
ゲクれハゲかぎゲクれハ　さんめんゲクれハ　ゑめそんゲ。クれハ　二十九
めゑぎ
ゲクれハのらんゲクれハ　ゑをろんゲクれハ　ハれそゲクれハよゲぬ
ゲ。クれハ　三十
やこべゲクれハいさけゲクれハのべらをんゲクれハとらめ

ゲクれハ　ゑかろゲ。クれハ　三十五
さるゲクれハらゲをゲクれハ　ハれけゲクれ
ハ　ぞろゲクれハさらゲ。クれハ　三十六
いゑんゲクれハのバさてゲクれハ　せん
ゲクれハのゆゲクれハらめゲ。クれハ　三十七
めとさらゲクれハ　ゑのけゲ
ゲきハやれてゲきハまれていゲクきハ　ゑのせ
ゲクきハせてゲきハのぐんゲクきハ　ゑいゑんゲ。クきハ　三十八
一節
第四章　ゑそ聖徒ようんじてよゑれとんよりクりて徒ようきち
びクれてのきちようのさりゆふ。ようゆ　三
ぞろぞるにはゆ十日ろくせび
きぞようーろうーてう多る。ようのいんくゑんちのー徒のひすと
ゑびゆいーようゆいはけてのちようさゑきと。ゑそ　四
ろるもようきのりんハ　ぞのちゆそ　ゆきふび　ゆきー徒の
ものくーこををのそは。ようハ　五
ようハそれをひきて　さろふようはりて

ちからくののひごてんうのめろ〳〵のくものをうれまとせ〳〵めて
いたくまるこのいきわひとあへばんとと申まんぢまのくさんとも
けぶ〳〵こまされまさびけぶれてわうもるのきくされまものくさ。まんぢ
まれをたへせべまるまんぢがめのまり。あそのいひかたくさくさん
ちりぞけようきちるもまこまめりわ〳〵まんぢが弟をたへ〳〵てひとり
これまくるとびはくまるまよ。きさひきて天ろされんまいくりてくらの
いくさきまこれをはが〳〵ていたくまんぢ弟のなすとまべそのれを
まげあをもべ〳〵。うきちるもまこまめりくまべそのあのつくひ
まめへじてまんぢをまりて。まあてまんぢをひくさげてのへいつも
い〳〵まけるをきねく〳〵ひ。あそのいひかたくうきちるもまこまめ
りわ〳〵まんちゲ弟とくろひとまる。あめへくろひをまる

をくりてちからくこれをたまる。
あそ弟のさくまんじてがまくまくりかくあのくろくまるくのまねく
くまちくまあの。くりのひ色まめりてあ〳〵のくくまくまる。
つひまねざれまくく〳〵きやまるくのくろまゆひていまの日まま
あそそのまがまりありのくをくりまりのひ色まいりかくくろてくろく
〳〵てくまれく。さきちるいさやが〳〵くりのくとのそこれまのくまる
をのりまをとひくきてそのうきくまるくをまをりいかくく。わ〳〵
のたまを〳〵あれまはをきて まれをのがてく〳〵きのまくまくひ
のあをがまとはくまきいくひのとまわ〳〵。くまくまがまゆる
くまめへくがまのくくくろまゆるきくまるをまをまるをまる
はげのそわ〳〵のくまくひのをまくはがくくひ。あそまくまをあをひて

はるたまのゆさらゝてそろゝてさゝゝかゝようのひをゆそるのゆ
ゝまが月とさゝゝてこれを見る。[二十一]あそいのひかたくゐんぢらゆ種とさく
八今日そるゝゝのゝ。[二十二]まがゝれれこゝゝゆこゝゝこゝゝそれゝゝちゝようのゝげる
のゝゝゝゝとをめゝゝゝゝとゝゝていたくこれよせふゝゝゝゝゝゝゆ
のらざるや。
[二十三]あそのいひかたくゐんぢらをゝてとんざをひきてゐれゆいゝゝや
おのれをゐをゝゝゐれゝゐんぢゝゐべるそんゆおゐゐひゝるときゝゝるへ
きゝとゝきゝゝゝゆこれをおゝゝゝゝよといんんとは。[二十四]ゐれきゝゝゆゐんぢゝ
ゆはげんいまぐさきゝるのれとゝきゝゝゝゆゐりてゐんぜゝるのれのゝゝ。
[二十五]ゐれきゝとゝゝゝゆゐんぢゝゆはげんゝゝゝゝいとやゝがゝきゝ天ゝちゝる
と三年六ゝ月のゝてのまねくゝゆをゝひゝゆきゝんはいゝゝらあと

のうちやゝのゝをゝゝれぞも。[二十六]いとやゝゝれゝらぶゝうゝゝゆゝゝれゝゆもはゝゝゝゝれゝゝ
ゝゝとぞんのゝれやゝゝひゝゝのゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あそけねざれのまづうえれもまゐたちて。ふさうのふれまづうまゐ
のるをまるえれもまる ぞりおねゐもあれてのまをのらん。ひをろのふね
もめんゐぞくもあそそれゐはりてをろより もそ〜もゐれら〜めゐ
と ゐぶひゐろん はるゐざ〜てあね うちより たまを を〜へゐん。いひ
をたりてもめんゐいりそいひゐたくうりて〜ふきまろゐいうり
てのまを ゐろ〜てのそ もるぞりせよ。もめんまをそいたくまを子
ゐれゐよも もぞゐくらう もまぞも ゐるまろ ゐ〜まりものゐをの
ヒをを めりて ゐまもるをちの のまを ゐろさんと も。ゐろせべ もゐたち
うをまるうをもゐたぞ ゐわくてのまへわをんどさける。それべうふねゐ
をるのまもぞちをまねきまりてたゐけまゐてうををゐまろのふねゐ
まを〜まぶむゐ ゐうをんとも。もめんべてろそれをまを あそのの〜

まろまゐ うぞ〜ていたく きまを さりたまへゐ ゐれいま〜 はまを びと。
もめんとつれれ人まゐ ゐぞろくとくくわどゐわくのうををとるゐ
ゐろそ まり。もめんがぞうをん もるをちもべざいがあまりのゐすと
やこべとゐをんときを まり。ゐそのもめんゐいひゐたくゐるる
をゐれ今ゐり〜てはちゐんちゐ人をはるべ〜。それらへふねをそろ
ゐひきはゐ〜をまゐもそく ゐそゐもそくゐ。
ゐそひをろのゐらゐをるをきをんうゐかまろきまをのくさうをゐぶらゐ
の人のりて ゐそをんそうぞ〜てをひそいたくきまを うけをまべ
ゐくゐれをいきぞまゐ。ゐそまをはをはをてそれをゐぶをいひゐたくく
ゐれうけをむゐんちいきぞまゐゐ世よ。のくさうへもるをちはぞく。
ゐそそれをいま〜ゐるゐ人ゐはげるをれをゐ さべゆきてをのきと

まゐりたるさま世〜めでたき世がいひつけれとをりうんぢがいさぎよふ
せらるるよようそれへとたそまゐりてのろ〜よろやうことをうせよと
いふ。十五　ちうぢ　ぞもそれ名わすれいろ〜のらるるおわひうるひらぐりぞも
のふまりてきくそれ中まひうわさるゝことをはぞむ。十六　そそちうぢきてのの
ぢらるゆきていのりかふ。
十七　ある日　ぞのそく　そ〜ゆるるふへそも　ぞもわうぎのし〜ちうろ
ぞもがそこのおら〜よてや　そそるされんようきさうてさきるこのり
わ〜へそれけうとのらそ〜てのつそくれうとうをそも。十八　ちうぢうきる
ののをれぞこうたづさふのれおりのきまとさびれてちうろ〜ていりて
そそのきうふこれをそうんとわうきも。十九　人をわく〜ているこをそび
いま〜いそれいさきふけわりてくんうのうより　ちきぶさんとあふ

そそのきうふそう〜たり。二十　そそそれうがちんぎるをそそちうぢう
きるのふいのそいひかたくふうんぢがはをゆるさる。二十一　ぐくちや
ふへそもぞもひやうぎ〜ていたくけうらそのくぐんきるのれ
たれぞや　彼のわうたれうよくはをゆるそや。二十二　そそくれうがう
のひをさをりていひかたくうんぢううんそをひやうぎ
きるや。二十三　はをゆるさる、といふへおきそゆけよといふとりげれうゆすき
そや。二十四　たゞうんぢうふゆんげんのおすと他ふのりてはをゆるすれ
いきわひのるこをちう〜ちがたのはをふちうぢうきるのふいのそ
いひかたくられうんぢふおきてれををりていふくをふよとといひ
はける。二十五　そそ人きをうんちおきてのろ〜のきふのりてれがをちう
ておのれがいふくりて彼をさるりくやうそ。二十六　ちうがこれをのや〜そて

きさ弟とさろりくやろ〜きさおぢろきていたくこんわらぞんぐたんへ
のこをみる。
二十七 それはちゑそいぐろれひいと名はけるのまふぎゆくまふぎとぞる
のむよざをるをみそこまよりみていひみたくこれよまさぐへよ。
二十八 はあよのろくのこををそおきてまろうしてこまよまさぐ。
二十九 れひいへおのまがいよのりてゑそよおれるまひしおやくのまふぎ
やくぐうんとあよざを。三十がくまやふへをぞもとそしてまのてし
よいたくゐんちうまふぎゆくはまびとたちとあよいんまろくをる
へゐんそや。三十一ゑそこまそいひみたくたろまやのへいまやと
たのまびいましゆむのれはまを。三十二ゐまきろてぎのるんをよおよ
のらぐいましはまびをんまのらまのたのはまを。

三十三 まがいたくよたんのでしまぐくんやていのるふへをぞもの
でしきまろりまゐゐんちがでしいんまろくをるへゐんそや。三十四ゑそ
のいひみたくたかひとおまぐくのりいがんそよくたかよれ家
んをんやゆさせるや。三十五日きろてたかひとくれらよろれん
とをれまきいましんひやる。三十六きまたをきうけてのろくよ
いまていひみたくいまぐあるきころのをおぎよよのまらしきはれを
のちゆるのれのらぐおそらくへのまらしきへそれあるきとまろり
まろうしてそれのらまれまれあるきとのたぐるこをを。三十七いまぐのらまれ
ぶぐうざけのるよあるきたるをのちゆるのれのらぐおそらくへ
のらまれまけそれまるをやぶりまけものりたるもきまうしよ
こをを。三十八のらまれまけのるよるらぐのらまれまるをのそを

ものをうれまうさくせ。[二十九]いまぐるまさけとはまそ
ものやうよ　のさらしきと　ぶぐよ　のれ　へ　のらぐ　ようて　ふるき　のれ
まされりといふ。

第六章　[一節]ぐぐ　ニたぐれいふ日よ　ゑそ　ぬぎもふとをるときでしぐも
かと　はまそて　まゆて　のまて　ちうして　ふ。[二]ふへせもの　ぐぐ人
これらよくうていたくいふ日よ　おまるよ　ぐうぐる　ことを　ゐんぢう
ゐんそ　おまるよや。[三]ゑそ　いひ　ぬたく　ゐん　ぢう　ぐひて　とちぐぐ　のの
とう　ふる　ときおまるひ　たる　ことを　よまぐや。[四]ぢのまやよりてそゐよ
のちとうてちうしてたるうちちぐぐ　ののよのふ　ぐひ　のち
へまうりつうさはまとふる　ぐ。[五]まさいひ　ぬたくゐんげんの　ぬすとまる
いふ日のゆしまり。

[六]まさぐういふ日ゑそ　ちうの　ひを　よいりて　をしへ　ぬふ　ぐまりの　ま
おまちふ　のの　のり。[七]ぐくちゃ　ふへせもぐも　ゑそ　をうぐひて　いふ日よ
おうて　いやもやいかやうれよ　はまを　おんせる　ことを　ゐんとわうせ。
[八]ゑそ　ぐれうが　ぬひを　ちりてその　まを　おまを　めへ　まて　おきて
ちうよ　たてよといふ。はまよ　おきて　ちうしてたう。[九]ゑそ　のろくく
よいふて　いひ　ぬたくぐまいちぐんとの　ぐて　ゐんぢふよ　ぐんいふ
日よ　ぜんを　おまるひ　のくを　おまるひ　いのちを　ぬたく　いのちを　ゆぐる
へりぐれうよろくきや。[十]はまよ　めぐりて　のろくて　をそ　その人よ
いひ　ぬたくまを　はまよ　はぐ　ぬたく　ぬたちいふて　ぐうの　まのぐ。
[十一]まか　ぐける　ことを　ちうの　ひ　ぬりて　いふよくて　ゑそを　おまるんん。
[十二]その　ときゑそ　やまよ　ゆきて　よも　ぬぐう　ぬよ　いふる。[十三]ひるうりてでく

ぞもとよびて十二人とをらびてこれをのみたまひしのち。十四 ものんきよべてろとをるあうびきやうぶのんでれややこべよをんひとびいたとろまい。十五 またひとまのびゝゞ ぐはすとやこべぎろてとをるのものん。十六 やこべがきやうぶへよぶぎきよぶぎいゝゞうをうたちゝをうとうるのものり。十七 あそこれらとゆまをんぶりてこのちよたつのろゝゝのでゝたをのおあひうるはらぶりのまねくよてやあるされんてろとをぎんとのくんくんより きたりてきくゆまひをうをををとを ゆぶ。十八 きよのくまようをまをるのものりをかうををとををたり。十九 あそよりきくのふたれてのてんとうををゆよのろゝゝこれをうぶんとりろを。二十 あそ用とのげてでゝぞもとアてひひろんくまゞゝきのものへさらをんひのり 弟 ん よいをゝゝうんぢらがのるところとのそうり。二十一 うあるのれへさらをんひのりうんぢらきよのくまぶよせられんとをるとのそうりうくのれへさらをんひのりうんぢらがきよのらをんとをるとのそうり。二十二 みんげんのはすとのたのよゝてをのうゝてんぢらとのををうんぢらよきぶたりくうゝうんぢらとはろひてうんぢらが名をのをとのゝきのものをのをがぶくせばををうんちさらをんひのり。二十三 それ日よろをんひそぶれよ天よのりてうんぢらがのうびのるとおのひうるとのそうりそれせんをさきをるのものをうのりときさかくのぶくをたり。二十四 ぶをるのものへうぶをんひのりうんぢらかうてのんらくくと名たるをのそうり。二十五 のくまぶよをるのものへうぶをんひのりうんぢらきようあんとをるとのそうり。うらふのの

へ、ゐざんひのりゐんぢらまさゑかるゝゐんとまるとのそゐり。
二十六 のろ〳〵ゑわからるものへゐざんひのりそのせんそいんたりさき
ちるものをとりのつとまさかくのでゝたり。
二十七 ゐれゐんぢらきくのゑかさらんゐんぢらゑてきまるものへこれを
のゝゐんぢらとゐをものへこれゑぜんとわどこせよ。ゐんぢらと
二十八 まゞちはろふものへこれをいたゝくよゐんぢらとゐやまゝゞにまる
二十九 ものへこれゑかたりていのれよ。人ゐんぢがくさわふをうっさきへてん
ゞてまさくさわふとのそてこれゑものゑよゐんぢがうんぎをうたゞ
三十 ものへちさぎをふせぐとゐゐれ。ゐんぢゑのをまるものへこれゑ
三十一 のさゝゐんぢがものをうたゞものへきさこれをのをまるとゐゐれ。ゐん
ぢらへものれらゑわどきんとをわっまるへゐんぢらもきさへゑ

三十二 わどこせよ。ゐんぢらゐんぢらとのへまるものをのへまゞゐんのめゞを
ゝこれのらんけゞゝはゝびとゝもきさとのれまるものをのへまる。
三十三 ゐんぢらゐんぢらゑぜんとわどこせゞのゑぜんをわどこせゞゐんの
三十四 めゞをゝこれのらんけゞゝはゝびとゝもきさかくのでゝ。人ゑゝて
ちろゝゝてはのふををけぞめゞゐんのめゞをゝこれのりんけゞゝつを
三十五 びとゝもきさはゝびとゑゝて つのふをのをかゞのでくゐんをを
わっま。ゝゞゐんぢらゑてきまるものへこれをのへゝぜんとわどこ
ゝて つのふををけぞまゞるときへまゐんぢらゞわっびおわひ
ゐりゐんぢらきゝゑでくゝゐきのゝ子ぞもとゐらんとまけゞゝ
三十六 ゝれもおんをとゐするのくゐんゑめをゝどをおこゐゐん。ゝるゞゆゑ
三十七 のたれんをとゐんぢらゞ天のちゝのでくゑせよ。ゐんぢら人を

しかしながら四つの小さな[illegible]の[illegible]が[illegible]。[図十二]

[illegible]の[illegible]の[illegible]の

のらんをけど きもよのぶれるハんちよりより。

四十六 うんぢらうんを見れを わ〜〜〜と さありてちろ〜〜て見ゲ上をを

おとうをたぐらんや。四十七 見ゲ うんぢらよ ちの屯おうを見れよ はきて見ゲ

上ををきてちろ〜〜てそれを見とあるものハちるみをのてそれを

ぐるやと。四十八 いへと たてる人を くさぐるふくりてちさぶをりたれ

よをきとう見れ ちづのぶれ くハうゲれていへよはうく はけ ぎもちろ

ちよくそれをうぐろをとのそれぐそのちさぶいたれのうよ そそふれ

ちるとのてそうり。四十九 さぐ見ゲ上ををきてちろ〜〜て見とあたぐるのの

ハちさぶ うく〜〜ていをつちのうふふ ちてる人と くさどる くハつちく

うゲれて それを つけバ つるよ ちをる ちろろ〜〜てそのいへのゆぶれる上

おわきうるうり。

第十章　一節

ゑそのろ〜〜ゆ上をを ちてるよ きゆ世ゆ ゆ ゆ

けゞ〜これも人のいきわひのそさうぞく〜はへのへはがちさう
ぞくせこれをされよといへゞきをあたちさるゝれよきなれよといへゞ
きをあたちきさるきさはがちもおとそはこれをそちあへよといへゞ
きをあたちこれをそちあへ。[九]あそきそてこれをめづ〜とし〜てちさうぞ
のものもとくりはそていひあたくはれゐんぢちよつげんいぎら及せ
がうちいまゞくわどのおわもゐるちんぎるをはんゞ。[十]はあたきるのの
ぎものよくれゞゆまひ〜たるちもおとせぎよゐりさるをはる。
[十一]はゞ日及そひとおちら名へ及ゐんといふちろよゆきてで〜おわき
たゞおわきとあよゆく。[十二]おはれくどよちろよれゞ及せるものをくき
〜ていぎそのれのりそれをひとりはおすをうまら〜てちあろ
〜てゆもめゐるおちられたゞおるのれおわ〜。[十三]ゆ〜のうれをはそて

のたれゞていひあたくゐくとゐうれ。[十四]つゐふちくぎきてそれひくぎをゐ
ゐれゞくきをるのれぎもとさむ。及そのいひあたくはあきおとと
はれゐんぢよいふへれざわよといひはける。[十五]及ちるのれおきてざ
〜てくろのれいよ。及そ子とのそちよのふ。[十六]ちか おどろきて非
とさあり くぐやう〜ていたくをあひゐるさきちるものはれらがうち
おきさうきさ非へそのたゞをくろりゞをさりと。[十七]それよりへくれの名
たあきゞへよてやいうさうきさわをりよきゞゆる。
[十八]よちんがで〜とぐくはとをのそ〜ちろうよはける。[十九]よちんが
はあよで〜あたりをまれきて及そよはあた〜ていたくそれきさふ
きさらんとちるのれへゐんぢくそもくぐのものをはそむか。[二十]あたり
及そよつきていたくのらはれへちるよちんはれらをのあさよつろた〜

ていたくそれきさらんとするのれハのあさゝそも〳〵ぐうのものを
はぞむゝ。二十一　さきゝゆ友そおわくのやまひとはゝぶとホそゝおうびゆく
ゆゆおろさるのものぞもとうをとゝめてゝんぢゝぞもゆのきらゆをさまゆ。二十二　はゝゆゆ
そゝそていひゝたくゝゆんぢゝゆきてれきくさゝろをのゝそよゝんゆ
はげよめてゝのれれちんでのれのゆゝのくさゝうのれきゝゝはんゞ
のれきゝれるのれよゝゞりまゞゝきのれぞもゆよろゝびの
おとゞれおゝへはゝゝるゝと。二十三　およゝそゆれゆゝまらゞるのれハ
さゝゝたひのり。二十四
よゝんのゝゝひゝゝろゞきてゝ友そきゝちよゝんがゝをおゝゝて
のゝ〳〵ゆいそていひゝたくゝゆんぢゝのまちゆいぐゝゆゆをれんと
おゝゝるやかぜようゞゆさるゝのゝゝ。二十五　ゆんぢゝいぐゝゆゆをれんと

おゝゝるややゝゝゝゞゝもとさるゝんゝゝそれよゝそおひゝゞりてのんらくゝるゝ
のれハすゝまゆのり。二十六　ゞゞゆんぢゝいぐゝゆゆをれんとおゝゝるや
さゝきゝるのゝゝまゝとゆゝゝりゆれゆんぢゝゆゝゝんさゝきゝるのホ
ゝゝゝるのゝそ。二十七　ゝゝきゝるゝホそれのりゆれゆゞゝゝのくゝ
ぜんゆゆりてゆんぢゝがゝちをゝそのゝといゆのハゝゆゝちゝんゆ。
二十八　ゆれゆんぢゝゆゝゝらんいゝゞおんゝゆホゝゝるゝのゝぞものゝちゆ
のゝらゝれハゝるよゝんよりおおひゆゆるのゝのゝらゞゝゝらゞ弟ゝゆの
いゝゝそゝゝゝゝきのの加ゝよりおおわひなる。
二十九　たゝゝゝゝとゝゝぐゝゆくゝゝとゝゝぐゝゆゝんよゝんのゝのゝらゝれハゝとゝゝりてゝゝ
ゝゝをゝゝそゝゝゝろゝゝて弟をゝゝ巳ゝゝきゝといゆ。三十　たゞゝふハゝゝゝぞものゝゝを
ゝゝゝゆゝのゝゝゝゝろゝぞものゝゝのゝらゝれハゝとゝゝゞゝゝゝそゝゝろゝゝて

他の人のれうがあるよりまるのもありどとあせど。（二十一）ねーのいひあんたく
この世の人をさなみをのべてこれをかなぞるやきさうんのさとをのべて
これをさとよや。（二十二）きちうよざきるのコトんべぞもよくんぐるさぐひよよびて
いたくこれらあをあけぞもうんぢらあどふび　ぐれらくあーさうたく
ぞもうんぢらうあど。（二十三）のぶんれへとわぞもものよむんきたりてのちを
くんぐさけをはまぐうんぢらきるたちおみ　おあさる　といふ。（二十四）みん
ぐんのひすときたりてきよはさきくんうんぢらきるたちいふれ
ちらくとこのさけをのまんぐきらぎゆくくんつきびとれとまうりと。（二十五）
さぐさいちへのろーく　おのれがるぞもよぎかうされたり。（二十六）
うあぐーふへもきんとせべくれがいふふりてひーろ
よぎーあふ。（二十七）ひらうちのおんなのりてのとりはきのたりあそ

ふへもきんのいふよひーろよざきるとまりてさまぐとくゆく
とのるをのちきくりて。（二十八）あそのうーろよさちてちろうーてうく
なきぐそのの　をわぐーうーらのくきとのりてこれをはぐふそのの
とくちきひてくうやくをのべてこれをのぶらき。（二十九）あそよふるまふ
のふへもきこれをあそころよおのひらくへはん　のーさきるる
のさぐべくうあぐこのくれをうぐるのおんなされぞやとるけぐー
くれへはきのたり。（四十）
あそいひあたくきのんくうきいちぐんのりてうんぢよはげん。いたく
せんせへこたくへこれをいふよ。（四十一）いひあたくくーてうあぐーくりて
ふたりのりひとりへあ百きんをくりひとりへあ十きんをかる。（四十二）
つふあふべきとうーとくこれをきねあーきころきよいふよふたりの

うちよかりてをのへきるといびれかるるなどおきや。四十四 ほのんそんそ
いたくはげあふよあわきとまねかれるのそれより。いびれたく
ゐんぢげるきそろへのともゐり。四十四つあよあんなをくりまそほのん
よくそうていびれたくゐんぢかいふ
いりてゐんぢいまぐまづをのそはげのーとのらたべそあん
なへゐまぐあそはげのーとうるわーてくーつのくまとのそ
それをけどよ。四十五ゐんぢいまぐはげくらをきたべそあんなへはげいる
きまきよりはげのーときひをゆまべ。四十六ゐんぢいまぐくうゆくとのそ
はげくあべよわべそあんなへくうゆくとのそはげのーよねる。
四十七ゆよはれゐんぢよいよあんなつまあわくーてゆるさるそのへきる
とまきよあわーきそーゆるさるのへそのへきるとまきそー。

十八そよあそあんなよくりていびれたくゐんぢげつまゆるさる。
四十九そくとあるべよきるのれへひそあよいびたくそれいうゐるへ
ふーてそあうーてつまきでもゆるそや。五十そあんなふいびていび
れたくゐんぢがそんぎるとへゐんぢときそびうゆすんべてゆけよ。

第八章 一節 それけち ゑそそれ〳〵そうひらよめぐりゆきて非くあれ
よろそびのあそべれをつたよ十二のでーかれとあよは。のくまよよ
あわされて ゆまひを ほるひて けちよ ゐるの くべのあんなあり
きあたちまべそれときゐるまそやけんなより七ッのゆうれへ
あそれいで たり。きさへろでのいの家つろさぐくさのげはまよあんな
そざんなもべろのあわきのそんなものりてまあそれのるそろをのそ
ゑそよそあへはゐまる。

四 ことし はるのきさのひとりよりのあまりて あそよつげば たとへ でゐ〜を
きうけていひたてく。五 されば きくのれのりいぐさ ものう〜してさねをきく。
きくときまちのくさたちよ はるのれ ありあまる ちぶ さり
と〜くこれをくらん。六 いたれよ はるのれ ありはし〜 きあたち
かれるうるわひとぶ〜きをのてゐり。七 うたうちよ はるのものの ありう
たうへ はるでく はし〜 ものう〜 てこれを はるよ。八 よきむたよ
はるのの ありはし〜 ものう〜 てこをむすぶと百でゐき。いひ
とたりてよたひていひたてくきをかたぶきてきけよ。
九 て〜ぶもとひていたてく ゆ たとへ ゐんそや。十 いひたてく 非 今のひ
ものうとものるとゐんたちよのたてらるべう人よはてへとをきうけて
これらと〜てあてものうう〜てのきたうゐらびきてものう〜てさとら

ゐび。十一 ゆ たとへこれゐりさねへ非のこたりゐり。十二 まちのかたたちふ
のるのれへきくのの ありはよきあたちきたりてこたりとそのそろ
ようたひてものんじてものう〜 てものれん こをはる。十三 いたれよ
はるのの ありへきものう〜 てよろびてこのこたりとうけるが
ど〜 たれゐく〜 てきたちものうたらくものんぎるはそろものうきき
つのよこれよそなく。十四 うたるのうちよはるのの へゐれへきてものう
〜てゆきて ゆ いのちの はるんでゐりざへのっのんらくよはをたれて
ものう〜 てこをきたらく ゐび。十五 よきむたよ はるのの ゐれへ よきと
きとのそろとのてこたりを きてきるよものぶとのて〜 て
ものう〜 てこをむすぶ。
十六 へものう〜びをて〜 てこれをうたへのとのてくて〜のるひへこれを

れぞこのおなふおなじいきをとり〜びがびかたてゝいるものゝそのひろを
を「ん」とかいた。十七 ひまうどのふんれざるものへいまざこれのふべ人
ておなうゝてのれきこんざるものへいまざこれのふべ。十八 そのゆふいろ
ゐ〜てきくやとはゝ〜むべ〜けざ〜めるものへこれよのなんべれるき
ものへきあたちそのゐりとおのふきろもうたゝ〜る。
十九 ゐそのをときやうざびときなる人おわく〜てちゐざくとを考び。
二十 ゐる人いたくのあとのをときやうざびとわゐよこちてのゐきを「ん」
とかうを。二十一 ゐそのろ〜よいそいひゐたくゐがをときやうざび
といきを〜彼のこたちときておうゐ〜てこれをおこゐよものゐり。
二十二 一十日ゐそで〜ぎとふねよはゐりていひゐたくゐれらいまきう
うこを ゐたんん。ふねへはゐよゆく。二十三 ゆくきへゐそはゐる。きべ

うこのゐうこんゐうゐたゐよんざるふねうちきべきそうてのやうきと
をゐたんど。二十四 で〜ぎこれをさきを〜ていたくふ〜ふ〜ゐれらわろびん。
ゐそおきて かぜ ゐきを はゝ〜れべ きゐあたちやこて おうゐ〜てなぎ
たり。二十五 で〜ぎ ホいふていひゐたくゐんぢらがゐんぎるへいげよ
クゐる。ふゐおどろきてのや〜こていたくこれいゐんの人をかぜときべ
とよいひはけべきこれふおたんべ。
二十六 かれらがざれぎものちゐこよいたりてがこ とのひたんきるきろへ。
二十七 ゐそころよはゐれべ人のりておろよりいざこれよのよいきを〜ひ色く
およぎもよおこれてころもときびいたよこゐらべおろう〜てつろホ
きむのれゐり。二十八 ゐそとこれべ うん色ておわひよよびていたくごく
たちき彼のゐすとゐそゐれゐんぢとゐんそのべろらんのをろらくへ

ゐんぢょうれを　くるゝ　ものと　うつれ。（二十九）けど　ゑそは　きぐにの　くまは　人より
いそよとの　ひ　はけ　ゐっひたり。山の　くまは　ゑべ〳〵　これを　ゆぎる　ものらる
ゐは　ゆきうとの　ひって　きまぎ　ぞも　ものたり　ゆと　ゆぶりて　おゆくの　ものちふ
おんなる。（二十）ゑそと　ひて　いひ　ゐったく　ゐんぢが　名へ　ゐゐ　いたく　くゝそれ
うちは　いるれ　おゐ　おゆき　とのって　ゐり。（二十一）はゐは　ゑそは　ものと　ゆって　ゐっき
ものちは　いれ〳〵　ゆる　ものと　なる。（二十二）その　ものと　ゆは　ゆらぶり　ぶさ　ゆまは　くらふ
ものと　ゆりの　くまは　ゑそは　ものと　ゆって　ぶさは　いる　ものを　ゆる　せよと　ゆる〳〵
ものり。（二十三）のくまは　つゐは　人より　いぶくぶさは　いる　それ　ゆらぶり　さっより
つき　おちて　ものづうゝは　おゆれ　たり。
（二十四）かひ　のれへ　それを　ゆって　ゆり　てさと　ゆらは　はげる。（二十五）ものが　いぶく　ゐって
ものと　ゆって　ゐっ〳〵　して　ゑそは　きて　のくまは　いぶる　のれ　ものを

きて　さへちの　ものれ　ぶくは　ゆ〳〵　して　ゑそは　のの〳〵　ものは　ざ　きる　ものを　ゆって
のろ〳〵　おゐる。（二十六）ゆる　のれ　ものは　きて　のくまは　ゆ　おゐ　されて　ものる　のれ　いろは
〳〵　して　ゐり　ものる　ものと　ゐれっは　つげる。（二十七）ぶれの　四ものの　のろ〳〵　ゑそは
おのれっは　ものれん　ものを　のものと　おゐ　おゐ　ぶくは　ゆ　人なり。ゑそは
ゐれは　はゐって　ものっ〳〵　して　くる。（二十八）のくまは　いぶる　の　人　ゑそと　ものは　せん
ものを　のものと　ものを　ゑそは　ものれを　いゐ　せて　ものひ　ゐったく。（二十九）ゐんぢが　いっふ　くりて
神の　ゐんぢが　ものは　いろ　ゐど　れ　きる　ものを　人は　はげよと。それ　人
はゐは　ゆきて　のものれ　くは　ゐっは　ゑそは　ものは　ゆ　いろ　ゐど　れ〳〵　ゐっふ
ものを　いひ　ひろ　ゐっ　ものり。
（四十）のろ〳〵　ゑそと　きち　はぞ　ものて　くれ　くり　ゐっべ　はゐふ　ものれふ　ぢる。
（四十一）ものは　ゐの　はっさ　ぞり　ゐって　名へや　ゐる　きっって　ゑそは　のの〳〵

しようぶてあれがりよりのたらんをのをむ。四十二けぶ〜ひとりうまれるのはすのさ〜たへがへ十二きさよるせんとさるのれのり。

又そのゆくさきのろ〜これをさ〜むさむ。四十三おんなのり血ぐさを

と十二年いちやとたのむようざへをつしつひやせぞもよくうれを

なるわさのれす〜。四十四又そのう〜ろよりきなりてのれおんのころもの

のすをとるぐれば血ぐさをるたちさくまる。四十五又そのいひろたくされ

うるれをるをさるや。のろ〜うけぐたべ。べてろとおしくさるのれ

ぞもといたくふ〜のろ〜のるさとさ〜むさをちまるいま〜されを

うるれをなをさるやとさよや。四十六又そのいひろたくうれをるぐるのれ

のりてるぐるよりきさ〜きさくいぐるとさをる。四十七おんなへうををと

のくたんざるとをりてるるひおそれてきなりて又そのきくようしを

てのろ〜のめんせんよりてそれをるをたるのゆくときさいろふ〜

てさちさろるよるりさるとつげさう。四十八又そのいひろたくうるすの

そろやすんぜよるんちがたんむるるんちをるす〜さう。ゆすんじて

されよ。四十九おれりよきさようのひをはろさぞりのいくよりきさるのれ

のりていたくるんちがはすのるれ〜さう〜をろうをらうきるを

るる。五十又そのそれをきそいひおろたくおそるををるるたへちんせよ

はすのきあたちきふををる。五十一いるよべてろとやとべと

よたんとはすのの丈母とのわろぐろんいるをゆるさぞ。五十二のろ〜

るきてをろうをそうるる〜む。又そのいひろたくうくをるるるすのるれ

きるよのらぐ拾るおを。五十三のろ〜〜それきをよるれ〜さるををり

てうれをのぐける。五十四又そのろ〜〜とそいひぐてはすのるまををり

てよびていのみちをくろうあんをおけよ。五十五それ医師のくろうてきるたちおこる。五十六そこれをちゃくとのこえよりといつけおよ。父母おどろきのやーむ。五十七そおこるをこころとのそ人をはげるこをうれといひはけおよ。

第九章

一節　五十八そ十二のでーとよびていきわひをこまひてのそゆうれへとおこあてゆまひをうわせ。二五十九これらを非をのこちをはこそゆまひのるのれをうわせんとはおそーて。三六十ひおをくろどよういをのつこうれはへうくあろろなくくそうくれうくあろのころもう。四六十人のをよりてこれをきまよさるこもきこれより世よ。五六十一うんぢらをうけざるのれのらびれらよりさるときのーのちりをむらひきそのろくをうろと世よ。六六十でーぞものぐ

ろくをうゆきてそれくきろをよろこびのおとづれをはこそていのあるこをわどこを。七六十二ろこのきこへろで五十八そのおこあてきろをこくくきそこうたちゆすらへけどーよむんいきどこうとよものあり。八六十いもやのらんれこうとよものりいふーへのさきるつ十人ンいきどこうといふものり。九六十二へろでいんくよむんへうこうきどこをんびきるいうかくわどおこあてこきくのれへうこ人ゥはあをかれをえんとわろを。十六十三はおひでーぞもくろておこあてきろをのそ五十九そをはげきろを五十九そこれらをひきてひをろをこうぞきてべざいぞと名ばけこるきろれのれちをゆく。十一六十四のろくをうてこれをきこどこかれらを

うけきづたりてもよ非合なのようをいひなわをよりようのるのれへこれをうわーみる。十三日　をじかくなぶきて十二のでー
はきていたくうれらそよのりてのれちみるこたくへはふりと
ちらせよのまねくはらさをよゆきて中どのりまうくのるべー。十四　あそ
のいひみたくうんちらかれらよおうくとのえよ。いたくうれら
いくのめちふろのうをのるはをゆきてまうくをかんばんをなふを
のそのろくよのえん。十四　けぐーそれ人えんがあチ。あそでー
ぞもよいよていひみたくのろくとーてんをくあ十のりてざ
せーのよ。十五　でーぞもかくのどくよーてのろくをざーのうう。
十六　あそいくのめちふさうをとろて天とのふぎていたんてこれを
ろりてでーぞもよのえそのろくがきよをかーむ。十七　まかんて

ろのろーてのくきでよはそれのまりのんばけをひろよーと十二ん。
十八　あそ　ろばろよのりていのるえきへでーぞもこれとのよーう。
あそそひていひみたくのろくこれうれをとのよや。十九　そうそいたく
のらよれんとのばそのよたんとのよものいをやとのよものきと
いふーへのさきろる一十人ンきさいきばくうとのよものり。二十　あそのの
ひみたくろのらばうんちらうれたれをとのよや。ぺてろそうそ
いたく非のくれはと。二十一　あそ人よはげるとうれといまーわそ。
二十二　いひみたくみんげんのひすとをとはぶきよばをうけでそーより
ぞもとまりはたきのうーうとばくろやぞもとよきそられろうそろきる
ばん三日きさおそらん。
二十三　きさのろくよいのそいひみたくく人はうーろよきたらんとわろ

ものは何もない。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

うんぢらこれをきけよ。三十六そもそもてゑそひとりのるよのひさう。でー
ぞものくーてかれさきよアるさろとのそて人よはげば。
三十七よく日ゆまよりんぐりてさかこれをなかん。三十八かつアるちくかそれうち
つチ人ンよゑひそいたくせんせへのあらくへのあくとりなすことを
ゥりさかへよかれいまー　ひぐ　ひとりうまるののれうり。三十九ゆうれん
よさられて　ちちまちよ　よびてゥきひかれてよぐれをうがそ　ゑと
いなまーりてこれをたゑれるとろうよかゥー。四十　ゐれ　ぞぐよのあくとの
でーこれを　そんとをのをれぞものたんび。四十一ゑそいひかたくの
そんのうきさかさまの　世　ゐれ　うんぢらとさもよ　ーてうんぢらと
そのたんというまでよ　ぞきや。いざうんぢらがなすとさびさそ
そよ　きなれよ。四十二うれきなるののひぐなよへこれをとをーてゥきひく

ゑそのくまとけ　ーりてゐらんべをうわーてそれちよのたく　ちう。
四十三さか　他のおわひなるいきわひとめぐ臣とも。そのろくのれか
人のおとあひかふとろよってのやーひのとき　ゑそでーぞもよ
りそいひかたく。四十四ゆんげんのひすとかあらび人のまようられんと
ぞ。うんぢらひ　とたをのそきよ　ちのよ。四十五さかもでーぞもいまぐ
ちう　せび　けぐーひ　いれれ　かれ　とゆーて　さとらび　さかう　ーて
のそとんび。
四十六でーぞもひそちよのひ　ひやう　ろん　ーておれゥうちいびれゥおわひ
なりとまるやと。四十七ゑそそれそろのおわひとりてきぐりとをとりて
かたんちよをきて。四十八でーぞもよゥりていひかたくおうをゐゥ名
とのそひきぐりをうけるきへたあちゐれをうけるき

られをうけとるときへもあたちられをはかたをのれとうけとるそれ
ゐんぢらがうちのつとめもそう〜きなるものへきさゐおわひゐりと
せんとも。四十九
よ　むんのいたくふ〜られら　ッチ人ンのゐさの名をのつておわをそひ
いだもををアそてそれをきんじてそのられらゐ　ちたぞたぞるゆへゐり。五十
ゐそのいひ　ちたく　それを　きんぜるとゐれおうをられらゐのぞ
せざるものへもあたちられらグさあゐゐる。五十一
ゐそのゐ　ゐ　ゐ　

びとよそれちふびとをやふるゝことをきゐせてたゞゐんぢゆきて非人ふ
のまちをはたらくよ。六十一きさべう人のいたくきゝとれのあくよちたぶんん
とせくさだれさきゆきて色ホをるゥちんホいとまきるゝとゆゑ
ゐくよ。六十二そのいひゐたくきをきとまホかけてうゝろホクうまる
ものへよく非人ふ、そうぜば。

第十章　一節　そのゐちゐゝのべうの七十人ゝとさて、ゐたり〳〵これらを
つゐたゝてその〳〵ものれがゆゐんとかうきるところのゐちうさホ
さきぐちゆゝめて。二いひゐたくものつりおやく〳〵て是ぎきる
ものきくゐゝゐんぢゝものれつりのゐゝホそのものつりに是ぎ
きるものをつたゝさまくよといのれよ。三ゆけよあちうゐられ
ゐんぢゝとはたゝをとひゝのあかゝものうちよりるがゝ。

四ゐちうとものつゝとなゐれものれいれゐくくうなくきちぎをり人とれの
きるゝとゐゐれ。五いゝくくのいくよりれがもいくくのんゐれよといくよ。
六ものゝ　六いんのゐすとそよをちゝべゐんぢゝゲくのんこれよあそて
さゝまれちゐらざれべきゐたちきさゐんぢゝよくらんとき。七れいく
よきまひてそゐくくちうのものへこれをはゝたゝよけど是ぎきる
ものへそのひようちんよをうぎるなり。八いくよりゐいくようる
となゐれ。九ものちうよりて人ゐんぢゝをうけきゝたらべきゐたちち
そのそゐくくちうのものをたゝよ。十ちうよをるきちうのゝやうちやへ
これをゐわせよかれゝよきさ非人ゐんぢゝよちうより
さりといくよ。
十ちうよりて人ゐんぢゝをうけをとらざれべきゐたちちまさホいゝ。

十二 ゑんぢらがそろのちりわそり　これらゑはくのものまでも　これらゑんぢらゑ　ゑ　ゑ　

ヘ ヘ ヘ

もくれさるところよりそるとききそをてそれを見てまさべうのくるたちよ
きぎる。さまをや人もとびゆきしてそれをるさるところよりたりて
それを見てそろうしてのたれむ。きそをちろびきてのぶちとさけとを
ゆぶるところよりけてそれをはちむおのれがはるのけどのれよりら
てひきてやどやよりたりてそれをくりうまる。そやろゆちゆんとして
くれ二のんめとりてて毒ホのたそいたくかろ山人をくり
そよはひやしさらよおれくらべられくるときうんちホはそあよ。
三人のうちなんちがおのよホこれくわすびとホのよのはれびと
とまるや。いたくのるれそまるのそれなり。汝そのいひあたく
うんちゆきてそろりとせよ。
それちゆくときあそひとろのむちホりあたまろさと名づく

のあんなのりておのれがひよりそれをうけまじたる。それいのふとまをや
汝そのゆしのまふざしてとそろとをきく。まろたへおやくのそをうん
はちふるよりそをしてよして汝そよはきそいたくきそるうけいも
あとるれひとりそをうつるるよはきそとをのるとおのたざるや。かれ
るれとともよまるといひはけあたんよ。汝そのいひあたくまろさ
まろさうんちおんでろりるびらひへおやくのるとのゆんよは。そろも
りようのところへひとろはきまをやそれよきるけをきらびたり
かれようるひとるるとのたそ。

第十一章　汝そのるところよのりていのりあたろりてでしのりていたく
きそるれちよりのりとをきゆるるとよたんがでしるもよおしんさる
がどくよしあたん。汝そのいひあたくうんちちいのるときいんよるれち

[illegible]

[illegible]

[illegible]

よのたぐさらんや。

十四 及そ　ゐ〳〵　ゐみを　ゐひて　ゐよいぐさ　ゐ〳〵　のれ　のれ　よのろく

それをめぐら〳〵とも。かべ　十五　の人　のりていたく　かれ　ゐよ　の　ろうべぎぶ

よ　このそて　ゐよ　と　ゐよ　ゐけそ。　十六　きさべうよ　のりて　天　よりめぐ　ぢきぎる

とのとあて　のそ　かれを　ところ　きんん。　及そ　かれ　が　ゐひを　ちりていひ

ゐたくゐろを　ゐよ　きべゐ　ゐ　のひ　ゐられて　のらそべ　くあらべ　のれる　と

よ　いたる　ゐ　きべうう　のひ　ゐられて　のらそべ　かあべ　こをる。　十八　の〳〵

さこん　きべうう　のひ　ゐられ　のぐそた　それ　ゐよ　なゐを　のそ　こうや。

ゐんぢう　ゐれべぎぶ　よ　このそて　ゐよ　と　ゐよ　とゐへ。　十九　の〳〵　ゐれべぎぶ

よ　このそて　ゐよ　と　ゐた　きゐたち　ゐんぢう　が　子　ぎも　ゐよ　と　ゐへ

これを　このむや。　それを　のそて　かれう　ゐんぢう　と　きさんとも。　二十　ゐれ

の〳〵　他の　ゆびを　このそて　ゐよ　と　ゐた　きゐたち　他の　ゐよ　たた〳〵

て　ゐんぢう　よ　ぐう　こう。　二十一　それ　ゐたうきの　れ　ゐよ　ひと　きてきやと

きのれべ　きゐたちの　ところの　のれ　ゐのん。　二十二　たが　かれ　ようさぶふうきの

れ　いたりて　それを　かてべ　きゐたち　それ　このむ　ところの　ようひと

うたひて　ちうう〳〵　てそれ　ゐびやう〳〵　ちうを　ゐうう。　二十三　ゐれ　とする　よ　せざる

のの　へきゐたちゐれ　よ　のぐきゐれ　と　ゐよ　ひうたぐる　のれ　へきゐたち

ちぐきう。　二十四　のくよ　人　より　きゐれて　ひぐう　ぎうう　よ　ゆきて　ゆすき

とのとあて　そべ〳〵　ていたく　ゐれ　きさよ　いぐ　こるの　ゐ　よ　くぐん　と

きゐ。　二十五　いたれべ　きゐたち　ぎうう　ぢ〳〵　て　ぐう　ぢり　せぐる　と　ゐる。　二十六　つゐよ　ゆきて

べう　よ　なく　ゆう　れ　ゐ　ゐの　きよ　りの　ちうきの　れ　と　たべ　ぎうて　りて　ちうう

〳〵　かれふ　きまよ　それ　人　のの　とのう　れひ　ぎきよ　りへ　きゐれど。

二十七 いひあらそのひぐのろ〳〵のうちひとりのあんなそをのげていたく
あるさとをたふむのたちあるさのきひさるちんびさらんひあるかか。
二十八 及そのいひあらたくいまぐ雅のとたりときてそろう〳〵てこれを
きあるのの〻さらんひのりとをるよそろんび。
二十九 のろ〳〵そろまりのあるまるときあそいひていひあらたくこまい医の〜
き世ゐりめげ〳〵きそろ〳〵とのとあれぐもさきそるよなのの毒
のわろよべろのそろ〳〵そのせんわび。三十 けぐ〳〵よなの掃ひ人よそろ〳〵
とゐりそるがどくゆんげんのなすとをきさ仏世よそろ〳〵とゐる。
三十一 ゐんでうのあんるようさ〳〵日よのたりてをさあきて仏世の人
とはをせんとをようてかき他のでくをてよりきたりてそろゆん
のさひちのとたをきろんとをいんやそろゆんよりあわひゐるのれ

そろよのるとや。三十二 掃ひの人たをを日ふのたりてをさあきて仏世
の人とはをせんとをようてろれろよるのゲぐんぎとのたて
ふやをのらそあ そりいたんやよるのよりあわひゐるのれそよ
のるとや。
三十三 人とり〳〵びをのや〳〵てろれとそろのるひへきをの〳〵とよをかび
ゆ年〳〵そろぶびよをきそいるのとを〳〵てそれひかりをアせ〳〵めん
とかろを。三十四 それ刃のとり〳〵びへ月ゐり月をぐくそろゐるときへ
をゐたちきふたきき刃ひかりまろ月のゆ〳〵きときへ刃をきそんらさまふ。
三十五 それをはを〳〵ゆよかるゐんちがうちよのるひろりんらさゐるとゐれ。
三十六 ゆ〳〵きふたき刃ひかりまちてけをちをんらくゐきときへをゐたちち
それ ひかりきふたきととり〳〵びのゆかろりてらをへゐんちよひゐる

よよう。

三十七 いひおろかなるものゝふへもせ人あそとふるまひもそれもうたちはりてむゝろよさせ。三十八ふへもせへかれのまとのらんゝてぞうくきるとゝそこれをのやゝむ。三十九ゆゝのいひおろかくうんぢらふへもせぐちさうがきとがんとのわをきうくゝてゑもうんぢらがうちむさゝわりむうんゝじのゝきとまもう。四十さへちなきのれぞゝそのわうとはるのへそのうちをきとはゝらざらんや。四十一いやゝくもおのれらがのるところとのゝてわぞゝてゝもそへきへもあたちいさぎうゝんぐといふとを。

四十二ふへもせぞゝそれうぞんひのるかるけぐゝむうゝうんさやうのまねくなよおゝて十よそのひとうとわぞゝてゑもうゝてぎせと神をめぐむとへもうたちこれをもたらもゑもうんぢらがきさふ

四十三おうこうべきさろへこれうりかをさけこゝとくべらざるけそ。

四十四ふへもせぞゝそれうぞんひのるかるけぐゝうんぢらがよろこぶへようのひをよくさゝていちぢのうよやすきをとゝるうり。四十四せんといゝるのぐくおやふへもせぞゝそれうぞんひのるかるけぐゝ

四十五うんぢらのらんれざるのはうよよりそのうをふむのへもらぐ。

四十六けりとおゝゆるのゝおようのりてゑそよいひていたくせんせへひとべきとうれらをもたぐゝおゝる。四十七いひおろかくけりとおゝゆるのゝそうろうぞゝうんぢらもきとうぞんひのるかるけぐゝうんぢらおひぐさきのわをのゝて人とゝてゆるうんゝてろうゝておのれらへもあたちひとつのゆびゆゝてもなぐびぐ。四十八うんぢらうぞんひのるかる

けぶ〜さきるのく　はうゐんぢうこれをはうりそそ　そうゐ〜そゐん
ぢうがせんそこれをころ〜たり。四十八かくのごとくゐんぢうせんその
〜ろをうけぶ　とそうこきるゐたるけぶ〜せんそへさきそる
のをころ〜ゐんぢうへきあたちそのはうをはうたそる。四十九ゆゑゐ
きさ　ぬのひでさっちいひていたくゐれむさきそるのとのつたう
はうひとをくれうゐゆるそのうちゐこうきる　のものちのりそま
おんれるのものあり。五十めそせけんのものとぞそようさきそるのぞも
の血をゐぶそのつをこの世ゐおそそびねらる。五十一これすゐたちのべを
が血よりざうをやきうりぶんとてうとのひだふわうびたるのく血
いそるきでゐれきをゐんぢうふつぶんそのつをむさこの世ふおそて
そびねらる。五十二はりをおゐゆるの〜ちうぞもうそきゐぶそたひのるふか

けぶ〜ゐんぢうちそきのかぎをひきうてきびゐうすまび〜て
そうう〜てすまんとわうせたるのをむさうり。
五十三のれいひぬふのひぶがくそやとふへをぞもとをおわくいたく〜めん
とこれをそのめうわ〜て。五十四ふへをぞもとをおわくいたく〜めん
かすのそうふ〜てこれをはをせんとわうき。

第十二章　一節
ときゐさそれひらぶかびく〜のようびのうまりてのひたびふ
ふをふぶゑそて〜ぞもゐいひそいひぬたくはちんでふへをき
ぞものかうびとふをせびふきゐんたちいそりぜんなり。二まぶふぶさうて
そのうう〜てのらそれび　ふれて　そのうう〜て　そうれざらんのれのらび。
三ゆゑゐんぢうふらきゐおそいひたるへむさのきうゐきのれ
ひそうざ〜きをはけてかるへむさいのうへはそる。四ぶそも

ぶちゃうされ　ゐんぢゃうは　かたくんゐんぢゃうが　刃をろ〳〵てばちべつは
きるをとのたたぎるのをおそるをとなり。五　さぶ　ゐんぢゃうかおそる
べきのれそとあるをきあたちろ〳〵てばちきさゐんぢゃうとぢ
ぐくはおそをのいきわひのるのれをそれをおそれおされきをはゐん
ぢゃうは　はげんそれをおそれおされよ。六　あッのきをわかれ　二ゐんあそうるは
のふぐや　あるれ　ぞも　非のまん　それひとつきさとすれば。七　きさゐん
ぢゃうがくらのかをあかきぶきかをそるゆをはおそるをとなれゐん
ぢゃうおわきのきをわよりハきされり。
八　されゐんぢゃうは　かたくん人のまをはのりてされをきさなるのれハ
わんげんのひすをとも非の天のはひのまをはおそきをれをきさめん
とき。九　人のまをはおそてされをそをむのの人非の天のつろひのまをふ

おそてきさかをふぐそをたまれる。十　をををのそゐんぐんのひすをはのぐ
きるのの人をの人のつをゆるをべ　たを聖非をけぐをのくぐん
ぐんゐんといきわひのるのの人のつをゆるをべふぐ。十一　人ゐんぢゃうをとりのひを
ゐのををうふぐ人なのをををのををのきをはをきをきるきのをは〳〵て
をきを聖非かをふぐのをはべきををのそゐんぢゃうをゐをせんをき。
十二　けぐ　のの
のろ〳〵のうち　一人ゐのひをてのたくせんせんはをきゐろぐはをされ
をとのはゆぐりはぐをはをせはをとのひをけのを。十三　のひのたくくんをれ
はれをゐんぢゃうのをはをゐをうふぐをきはぐをはろうのをとせりや。
十五　つのはのろ〳〵はのひそのひのたくつ〳〵んをはきるをとをれけぐ
人のの人のちををを人のをまりのるのをのふぐ。十六　つのはをを人をきをけて

いひあらたくなる人のりむたけへ参じくまする。十七おんだろりていたく
見ゆるさんおろうとんへべきところ今〜をさいろゆせんや。十八きさいたく
くるべく見ゆ今をそれちてさいるよおひひまるとつろうそそふのりて
たまろのものとさろものとをとうたんろくのどくそれゝまり。十九これも
きとさまるひまいたんとも見ゆたまるひゝまんちおわきさろりのり
のまるとのさるまつるのものんいつるしてはを今よろべいこのるゝお
と。二十いまるる非のいひあらたくおろうまるのゝゝ山ゆるをさまんちゲ
さまるひのとろふれんもあんちまんちゲさたるところのものへ
これふかるや。二十一おうをたろうとおのれまつそろうして非のきふ
をとのふるのへきとかくのどる。
二十二
及そきさてるもまいひそいひあらたくゆまるこれまんちうま

はげんはちへまゆをのそこ及へなゆをのそきるとおんまるる
ことまれ。二十三いのちへくそよりさろときまへろもよりさろきなり。
二十四
そろをまとおのへおこれをきあべかりをきあべ今ゆる
さんへろうまるも非それをゆるまんちとりよりゆるゆど
きさるや。二十五まんちうされろよくおんまりとのそまのさけいち
ろやくもはんや。二十六ろるまたちゆるのれまれきるを
のたんべんでまんそそれはろとおんまるや。二十七そろをまゆりの
むまをおのへよいまるるるてちやうむるやらうせべはちがべろまも
これまんちうまはげんそろのんゲ八のどくまおそそれ
よそおひきるへゆむれひとうゆもろまべ。二十八それはをうの今さへ
今日なれぞんむをやうゆちかまるまげうなる非なれそれをろも

きるとかくのごとくいたんやうんぢらきうくちんぎるのものをや。
うみをのそこうみをのそこはむとおもふるとうれきさあんだろう
とくけるとうれ。けだしまあ仏とせかいのさまざまこがねるところ
うり天　又うんぢらこれをいりようのものをる。たべうして弗ふと
こがねよきあたちまあこれとこがらうんぢらようこころる。
きこて　きひらがりおそる、とかなれ天　又のようこぶへうんぢらよ
ようとのそのたふるうり。のたるきろをうりてのくてゐどこせよ
あるびざるのふろをそあそはきざるのこころを天よこえへよ
わもびとちびびひりむ〜ふらんざるところよ。けだ〜うんぢらが
こころのものるところハうんぢらがこころもきさあり。うんぢらがあびを
こ〜ようたろれきう〜びをのや〜をきて。わ〜とこんれへよりくんん

ときるをきつのんようせよくりてきろう〜てかどとさかべ
きうたちひらくべ。わ〜のきたりてきもあをとさあきるをあて
これきもあをとさあこひるくあるか。これきをよううんぢらようはげんわ〜
くあらびこがらあびとはろれきもあをぶもを〜てきくきるよ
ざせ〜めてきこてきろう〜てこれらようゆく〜つよ。のるひへニくろ
きたりのるひへニくろきたりてきもあをとをくのごくきるとを
これべこれきもあをとさあこひるかか。ひへのわ〜わをびとうんの
をききたるとこらべきうたちがるらべさあきりてこれひへをうがろ
とのたを〜めべこれうんぢらがこころがるをこころうり。かるがゆようそうて
きちこれよりよこてあのたざるのをきあんがんのひすをきたる。
べてろがいたくきをこれをとをきうけをるハうれらがをうよら

ちゝ人ゝのとゝあるよう。四十二わ〜のいとけなくして　ちゝこれさへくさひち
のるひとのつゝさわ〜これよりきく〜てそれひとびとをつゝさゆりてぶん
よのなりてそとのなく〜なるや。四十三わ〜きなるときもあとをうくの
ぶくきるとこれどそれもあとをさらえひり。四十四これきとかゆんぢう
よ、つげんわ〜ちさこれよりきく〜てのろ〜のるところをつゝさぶらん
とを。四十五ぶそれもあとをところよりあるよりあるよりぶわ〜ばび〜〜て
いたらんつるよもあとをもあんるとときはをらひてかつゝよ。
四十六いまも〜あのちぶるのは　ぶらぶるのちきよりあてわ〜きなりてんるる
よびくぶうとのそ〜てもんぜざるのれぶもとあるよりせんと
む。四十七もあとをわ〜のところとりてきうけそのんびかきがそろの
きうよ　せざるのれへあるくなちうなる。四十八ちらび〜てちろう〜てぶう

小のなることをうをのれへをを〜くなちうなる。あををあるくのなるら
ののれへをまりきくあるくるあるくこのまるのりれへこれより
きくあるくのようを。
四十九ぶなるへひとのそはよなげうろの〜ひをぶよのびぶれ
ゆれうんのはをかをろあるや。五十これきをよのらよをうけんとを。それ
きんをまりをげるきをぶれりあるよ〜ていなををちまらぶらんや。五十一うんぢう
ぶれきなるへはよをんをとわぶをんとあるよやぶれちあらびと
りてんじてんぶるとはを。五十二今よりはち一家あ人ゝきをよんぶてん
とををまなりへをなりよんぶてをなりへをなりよんぶて。五十三火へはなすとか
んぶてはなすとへちよんぶてをへはなすあよんぶてはなすあへをかんぶて
をうをあへよあよんぶてよあへをうをあよんぶる。

五十四 はるのよのろ〳〵よりひそりひかるくもゐ〜よりあるとそれば うんぢらのあらんとも といふ ものを〜てこれあり。五十五 くせそのまゝよりふくと それば うんぢらまさよ のろかんとも といふ きこれあり。五十六 せんと いらるのれぞもうんぢら天 他のきやうを ひかつ ものを うんそは さき と ひかつ とのたんざらんや。五十七 うんそ ものを〜ぶかつ よろ〜きと ところを はまびらろよ せざるや。

五十八 うんたん まるのれ とぞも よ ものん わんのきよ ゆめんと ちばそちの のひぞところを はて〜てゆるさる とのもあ おそらくへ うんぢを さ〜 ものんのきよ ひけば さ〜 ものん うんぢを ゆく わんよ ひと てゆくわんへ うんぢをらうやよ ものぶきんと。五十九 これうんぢ ふりふ ものれ いちをもかぞれば けろ〜てかる〜とよりいぞば。

第十三章 一 ものを ふさ ものを ふのるうば人 ひ ぴらと へが ものを ぞもの血を ものれら グまろり とまば さうとふ。二 ものそのひ ひかるものく うんぢら ものふよ ひ ぴが ものを ぞもの ろ〳〵 の ぴが ものを ぞもよりは ものれ かる ゆよ かくの どものぴ をうけ さる や。三 これ ものらば とふ。四 うんぢら ものを そ ものく ものざれば ものさ ものか うんぢば うれら ぴが どくかろぶん。五 ものろ〳〵 ものを ものれ ものの ものよへ ものを れて ものれて ものる〜 ものるのれ十八人ン うんぢら ものふ よ ひ 人 ものろ〳〵 ものるされん よ ものを ものさよ ものは ものれかるや。六 これ ものぶば とふ うんぢら ものを ものて ものろ ものざれば ものさ ものか ものふば かれら ぴが どくかろぶん。七 ものを〜 ものを ものをを ものうけて ものひ ものを ものく うんぢ〜 ぶぶろ それ ものう ものる かぞのきのり ものたりて ものろ〳〵 ものて ものぶば ものれを ものの ものを ものも ものば。

七 そのゝちあるひのたりまいひていたくあをちかがほれこと三年きたりて
くぶのれとのをれをもあれども。これをきりさをせよ。うんそをぢちを
きてをくや。八 こたへていたくきこゑまづ今年これをゆるせよ。ほれ
木の根をめぐりわりてこゝゝとのちゆるまで。九 のゝくへくぶのれを
ひすぶべゝあるひとんをこれをきりたをせよ。
十 いこの日あそよりいひをまのりてをゝゆ。十一 くをてあんるのゝのりてゆう
れのまたられてやまひきること十八年ヌまづりてばびるとのたんび。
十二 あそこれをあそかれまいひていひかたくあんるゝうんぢがゆまひ
むあさるべゝ。十三 はるまこれをなぐれをきあたちばびてさありを非ホ
かゝを。十四 よりのひをのつるさぐりあそいこの日まなゆをホよそうらを
いかりてのろゝまいひていたくきるきること六日のりきさりて

なりわさるべゝいこの日まへなゝび。十五 ゆゝのひかたくぜんをいゝてる
のれゝうんぢゝこれゝいこの日ホゝうゝうきぎをひまやふきて
ひきてこれをかきさるや。十六 いたんやゆんるのべらたんのひすめ
ゝうさゝんこれをはるべこと今十八年のまいこの日まおあてそれ
はあげるとさくのぎなゝんや。十七 あそこれをいひそのろゝのゝのぐ
むべるゝきゝまのろゝそれうゝかふこのひかりのきゝうるを
あそきあたちよゝこぶ。
十八 あそいひかたくぜのをまなゆをのそそれをゝきゝうふのれ
とのゝてこれをゝべん。十九 からゝのされれどくのりんゝりてそれホうげ
うてびちやうゝじてあるひうるホとなりてをぶとりそのあぐまをきを。
二十 きいひかたくぜをまをなゆゝうきぎるや。二十一 ゝうゝのどくのりあん

ゐるうちにてひぎれこの三ッのきせうちゑおさめてきをてかうぐを
もうせ〜か。

二十二　あそれ〜ちろとそてを〜ゐるされんホのあひてゆく。二十三ゐるんいたく
きをきもうひをゐるのれへそれきをゐかんやいひみたく。二十四もさてきて
せたきかどゑきをゐよされゐんぢらゑはげんいらんをのとあて
ゐざんときるのれおわ〜。二十五いのゐ〜おきてかどをとちてゐんぢら
わろゑさちてかどをさきてゐ〜ゐ〜ゐ〜ゐるひけふと
いんべかきもさされゐんぢらいげくよりゐそべといふ。二十六ゐんぢらもさ
されらゐんぢげきゑゐのりてはをたゐんぢきさされらがちきさふ
のりてを〜ゐりといふ。二十七かれもさされゐかをんゐんぢらいげくより
ゐそべといふきをそのゐくをおをゐふのれへ是より出られされ

ふ。二十八とをきゑゐんぢらもをのべらもんいさけやこべのろ〜のさき
ゐるのれとをゐゑ非ゑゐのりおのれらへわろゑおんれるをゐる
きをゐたちかゐふべかゐ〜をなきてもを〜べ〜ゐるをのり。二十九ひげ〜
よりゐ〜よりをゐをよりきをよりゐ人きをゑきなりて非のゐゐ
ざせんときるをのり。三十かゐてきをゐなるのれへもじゐホなりてもじゐ
ゐるのれへきをゐゑならんとき。

三十一　その日ふへをきかべ人きなりていたくをまよりさまをへろでゐん
ぢをとろをんとわろき。三十二あそいひみたくゆきてかのきろねゑつげて
いへおをんゐちをゐちゐれおゐをおひてゐわきををかべ〜を
日十ゑいをりてゐまきなくゑせられん。三十三ゐられどもをんゐちをゐろ
ゐちはべ日ゐまかゐふべゆをんけど。さきをるのゐかろぶをへ

あるされんのわろうへのさんび。あるされんゝあるされんゝうんぢ
さき　ゐるものをそろへてはゝひをうけるものをゆゝしうおりはける
ものゝうしろうんぢゞ子ぞもをのつるへをぞりのひあをはぶさの
ちさうのゝあるゞどくうせんとわゝきるをぞうゆくどとゆゝぞも
うんぢゝわゝせび。二十五　あゝかゝうんぢゝゞゆゝむさのあるゐれきさきとふ
うんぢゝうつげんうんぢゝゐゝのの名をたのそてきさるものへさゝちひ
のりといふのときいさるまでうんぢゝゐゝをあるとうび。

第十四章

一節　いふはうあそうあそうあゞふへもかゝゝのゆゝう
いりてさるときまかそれをうゝふ。二　そのきうのうりてむきゆまひきる
ものの。三　あそはりとおゝるのゝちうふへもぞもおりひて
いひあんくいふはうなわもをとをわどもへゝうゝきゝ。四　のゝく

のくとゝうり。五　あそゆ人をひきてなわゝうりちゝうゝてゆり
あゝふ。六　のゝくゝうゝひそいひあんくうんぢゝうゝうさぎおふのり
いふはうあううあうちれゞそれゝきあんちそれをおそちらんや。
七　のゝくゝうゝとちゝるとのさそ。
八　あそのゝわせらるの人かゝざをきらぶをあそつゆふさをきうひて
いひあんくゝ人うんぢをそれゝいうあせゞかゝざきるとなゆき
九　おそらくへうんぢゝりゝうゝきのものゝわせらるとのりて。十　きるんちゝ
うんぢゝとかゝきとをのゝわもの人きゝをうんぢうゝあらひをゆ人うゝ
ゆゞきゝよといふゞうんぢゝきあんちゝちゝて　きあゝあらひうゝる。十一　た
のゝわせらるときゆきて　きあゝあらひうゝさゞきあんちゝうんぢゝを
のゝゆきもの人きゝをうんぢうゝゆけよとゝゞきるんちゝ

おあづくざまるのの、きぐよのりてうんぢさあり。のるべ。（十一）けぐ〜
そぐらうさろくきるのへむさんぐ〜てひきとうさるそぐらうひきく
きるのへむさけが〜てさろきとなさる。（十二）きさのようわもののよいひて
いひかたくうんぢひるめ〜のるひへゆめめ〜とまうけるときへさも
きやうぶひそんせきとあるさあり。とのようわもとなるまおそらくへ
かれらもうんぢとのよ匹てせへのんとを。（十三）さふるまひをまうけて
きづ〜きかさいちんでのめのめらのめのとのようわもときへ。（十四）むるたち
うんぢさうたひりけぐ〜これらうんぢふおそとのさたぐ〜てろろ
〜てぎのるへいきぐよなんぢせたれんとも。
おあづくざ〜てろろくきるのの、ぎもの一チ人ンこれをきて（十五）
いたく非のんふきろくするのさうたひり。（十六）あそのいひれたく

のるへおあひなるさろのりとまうけてのようわさるくのれへむるたぐ
おり。（十七）さろのりのときもおとをゆりてのようゆさるくのの小つげて
きされよとをあそあたると。（十八）のろ〜くとたるとひとろよりいぐる
ぐど〜ひとりへいたくはをむなけをかひてきぐからくゆきてこれを
えんこたくへゆるせよと。（十九）きさひとりへいたくはれう〜あぐかとと
かつゆきてこれをころをんこたくへゆるせよと。（二十）きさひとりへいたく
はれめとりさるよろてきたるとのたたぐ。（二十一）もおとかりてわ〜
よはげる。わ〜いありてもおとよいひはけてきをゆあよもろれ
ちまさこをちふゆきてきづ〜きかさはちんをのれめらのをひき
きたれよと。（二十二）もおとこのいたくきをきぐふいひつけのどくおとるひ
さりもあもなをのまりのざのり。（二十三）わ〜それもおとふいひていたく

ぶうちうまがきよりぐそくひてのらせよりゆくさきなれん。[二十四]ゆきるん
ぢうよりかくさらんかれのうわされるのれされもゆくさうのりと
のちんよりとをるべ。
[二十五]おわりなるひらがりまあよゆくさきあそかうをてのひかるんく。[二十六]人
ゆきれよりはきてはるとよ毋きやうぶんのねりのとあうびおのれがりのちち
よりゆきれをのひせばんでゆくゆくとなるとのさんべ。[二十七]十のんじの
れりをあるるそゆきれふそさぶんばんをきさゆくでゆくとなるとのさんべ。
[二十八]ゆんぢうよれりよそんとゆくんとゆくてまづざゆくてそのはひえと
れあらざらんやのそとをもまをよさるやと。[二十九]おそらくへのとぶ
ゆくてはちもまをとのさんばんをまるのの[illegible]ものざゆくらひゆくて。[三十]
人はうれじのよれもそやうおるはるとのさんべといんんとを。

[三十一]のるひへてゆうのてとさあんんとのぐるかのふまづざゆくて一方
とのそよくニ方をひききるのれよのぐまるとれりべをを
めぐらさらんや。[三十二]そうらぜんでてきなれををきかのりてつろひをやりてゆ
がくをのとあん。[三十三]うくのどくなんぢうよあるところのものをまあまをそばん
でゆうべでゆくとなるとのたんべ。[三十四]それ、あれよゆくさ。あれそれのちんひ
とうゆくゆきゆきのそのちんひとつるとをあんや。[三十五]れなけふのちんべ
そやゆかのちんべさそれをりふまをそん。きくのきくのるのへきけよ。

第五章

[一節]のろくくのきんきゆくんとつきびとつきてあそをきんと
も。ふへをもがくそやもさやきそゆくかれのまゆくつきびと
とうけきべたりてさりふさる。[二]あそさんと[illegible]とまうけてのん
ろんく。[四]ゆんぢうぢ百ひんべのりてそれひそうをうゆくべれう

おもらく九十九のひゃくをのれちよきてもぢうしてそれうゑ
ののをゐひてゑんををのとめざらんや。五それば きあたち よろこびて
これをかなげてのてかる。六ともとありぐちとよびのりて いたく
うゑひとるひゃくをたぐれゑたるゑよそて ゐれとあるゑよろこび
よと。七ゐれゐんぢうゑかたらんはをびと一人ゝゑをのふたりあれば
きあたち天ゑのりてゐあびよろこぶときとかくのごとくホーして
九十九のざのる人つをゐゑむホおよぐるのの とあよりきされり。
八のるひゑおんゑかれ十きへのりてそれいちきへとうゝゐゑのふとの
びをはけていををひてはをとめて ゑんをのとあざんや。九それば
きゐたちもとりぐちとよびのりていたくうゝゐひたるいちきへ
とこびれゑとるゑよそて ゐれとあるゑよろこび よと。十ゐれゐんぢうホ

かたらんはをびと一人ゝゑをのふたりあれば きあたち 弟の天のはをひ
のきゐゑのりてそれよろこぶときとあり。
十一きへいひたくのる人ふとりのひすとあり。十二それおとうとのひすと
ちゑかたりていたくそたくへちゐれゐるべきのゐざへとのりて
ゐれゑのゐゑへよ。ちはのゑそれゐれゐぐをのそてそれよゐけのゐゑ。十三いまぐ
いくぐくなゐぐゝしておとうとのすとあゐをひろひとりてゐんぐく
ゑゆきてかれふのりてせうなくゝてこぐりホそれとあゐとつひやき。
十四ゐくくはひやゝてはちそれちゐあひホきゐんゝてとゐゝく
なるゐとあたぐゝ。十五それちゐさの一ヶ人ゝゑより はけべ それをゆりて
きたらゑ ゐりてぶををゆゝあたせん。十六きぶそれゐらゑさろのゐうゐろ
きたゑ ゑそんとゐう きれ ぞも ゐれ も それゑ ゐるを ゐゝ。十七さゐ

ふたりのようにうつくしい人形と暮らせたら良かったのに。[注4] 現代でもこの国の男たちは男性同士の絆を重視する。[注5] 男性同士の絆は女性を排除する。[注6] 男性同士の絆は女性を排除する。[注7] 男性同士の絆は女性を排除する。[注8] 男性同士の絆は女性を排除する。[注9] 男性同士の絆は女性を排除する。[注10] 男性同士の絆は女性を排除する。[注11] 男性同士の絆は女性を排除する。[注12] 男性同士の絆は女性を排除する。[注13] 男性同士の絆は女性を排除する。[注14] 男性同士の絆は女性を排除する。[注15] 男性同士の絆は女性を排除する。[注16] 男性同士の絆は女性を排除する。[注17] 男性同士の絆は女性を排除する。[注18] 男性同士の絆は女性を排除する。[注19] 男性同士の絆は女性を排除する。[注20] 男性同士の絆は女性を排除する。[注21] 男性同士の絆は女性を排除する。[注22] 男性同士の絆は女性を排除する。[注23] 男性同士の絆は女性を排除する。[注24] 男性同士の絆は女性を排除する。[注25] 男性同士の絆は女性を排除する。[注26] 男性同士の絆は女性を排除する。[注27] 男性同士の絆は女性を排除する。[注28] 男性同士の絆は女性を排除する。[注29] 男性同士の絆は女性を排除する。[注30] 男性同士の絆は女性を排除する。[注31] 男性同士の絆は女性を排除する。[注32] 男性同士の絆は女性を排除する。[注33] 男性同士の絆は女性を排除する。[注34] 男性同士の絆は女性を排除する。[注35] 男性同士の絆は女性を排除する。[注36] 男性同士の絆は女性を排除する。[注37] 男性同士の絆は女性を排除する。[注38] 男性同士の絆は女性を排除する。[注39] 男性同士の絆は女性を排除する。[注40] 男性同士の絆は女性を排除する。[注41] 男性同士の絆は女性を排除する。[注42] 男性同士の絆は女性を排除する。[注43] 男性同士の絆は女性を排除する。[注44] 男性同士の絆は女性を排除する。[注45]

のものへまかるんぢがのれたり。[二十二]ゑんぢゲあとうと[illegible]てきといきう〜ゐひてきよそなりこれらよろこびさの〜むとなべまり。

第十六章 一節

ゑそで〜ぞもよいひていひたくとある人いへはゆきのりてわ〜のうぞをいなげらよ[illegible]さりとうなたる。[二]医これをよびていたくうまひをゑんぢよあてきたるへいかん。いへつろさのさんかなをいぞせよ今より〜てはちゆゑんぢりへはゆきとゐるををべ。[三]いへはゆきへひそろよいひていたくわ〜うゲりへはゆきのそろくとうたひそりてうまいかんとそるや。さがそをよちろな〜ものをそゆよそゲるべ〜。[四]うまなそべきそろとゐるの〜かくのどくせべきゆゑちいへつゆきのそろくうをゐるのはちへかあらべうれをそれいへよう[illegible]ける。[五]そよあてわ〜のそろくきんがゐるものをいちく

よびてさききゐるのれよいひていたくゑんぢうゲわ〜よあへといくでくをや。[六]いたくのぶらう百はゆ。いたくそろうとゲきをとりてそろそらくざ〜てあ十とそるせよ。[七]のゲ人よいひていたくゑんぢゲあへといくでくをや。いたくひぎ一ぎ百きも。いたくそろうとゲきをとりてハ十とそるせよ。[八]わ〜へふぎのいへつゆきのあそゆをそろそそれさそをゆそけゲ〜ゆせけんの人それよろゲよあてそゆるをひゆりのきらろの人よりさそきさあり。[九]これゑんぢうよつゲんふぎのたゆらをのてをもをよきゆをたちきそらるをきゲりなきのきをかようけらるををゐる。[十]ゲうなるものよちろぎせべきゆをたちあひなるものよきよちろぎのりゲうなるのれよふぎならべきゆをたちあひなるものよきよふぎ

なり。十一なんぢらふぎのこゝろよりおこりまめならざれば、これゝきとのたゝりとしるべし。のちくゝうんぢらよこのむや。十二のゝ人よぞくせるものゝよりおこりまめならざれば、これゝうんぢらおのれらよぞくせるわゝよつかるゝとのこゝろにのるひゝこれをゆるしかれをのゝしるひゝこれをおんゞかれをかろんゞ非とたゝりとよつゝるゝとかれきゝくせるゝとのこゝろに。十四

ふへもぞもたゝりとおさゝるものゝ心をきゝくこれをとらん。十五

及そのいひかたくうんぢらの人のきゝよりのゝくぎをのゝくこゝろにのらんにうんぢらがこゝろへ非これをゝるけど人よたゝりとぶものゝへ非よりまるなり。十六まつかりとさきゝるものゝぞもとよたんきゝふいなるこゝより非よりはゝ人はゝらられてひとゝちゝからをのらひてのゝそせむ。十七天地のせゝるへゝろゝのひとこてんゝけるよたゝらゝべさらふゆゝ。十八おゝをつまをいどてゝうとめをるものゝへりんらんとおこゝろおとよりいなさるゝこゝろのものをめをるものゝへきさりんらんをおこゝろなり。

十九なゝみゝとゝる人のゝてのゝきこゝろもとこゝまろれをきてひゝよゝ人びさゝゝりとこゝ。二十きゝまゝゝきゝ人名へらゝろおゝくゝさいゝるものゝれのゝてゝるものゝゝどのゝまゝよこれをゝきたり。二十一さゝる人のゝびゝゝこのゝゝるゝゝけをのゝてゝゝをゝてんとゝろゝいねゝきゝりてゝれかゝをなゝる。二十二まゝゝきのゝろゝゝて天のゝゝひのゝれをとゝりてのべらむんのふゝこゝろよゝく。ゝゝるものゝゝゝゝてゝゝろゝてゝろ

ひられたり。[二十三]ちごく　よりくさ　くるしみのうち　月　とのげてむるろよ
らざろのべらむんのふさころよりあるとアそ。[二十四]よびていたくるがせんを
のべらむんゥはれをのたれそてらざろとつろたゝゆびさきとさげふ
ひくゝてはぶゝとさまさまゝめよけど　ムのゆるひのうちはれむるたぐ
くるゝむ。[二十五]のべらむんのいたくはげすこいきるときよるんちさらたひ
でとをうけてらざろなやさとうるべゝとあのいりあかきなぐさそて
るんぢくるゝむ。[二十六]きさそれはさそよのらぐるとんぢらとはれらとるろよ
あひるるちとのそかぎるそよりなんぢらよさらんとわつもれ
ぎものさそぐかゝとりはれらよはすもきさのさそぐ。[二十七]いたくくく
のどくならぐそたくへせんをらざろとはちのいよはろたゝ
くさそよ。[二十八]はきやちぐあ人ゝのりらざろこれらホちゝてさそ

いさりてくるゝさとうけるとをきねろらゝむ。[二十九]のべらむんのいたくくれら
ゝせあるびさきるのぎものりてこれらをきくべゝ。[三十]そさそ
いたくさろらぐせんをのべらむんゥのゝるゝたるのぎものより
一人ゝいぎかれらよはぐかれらかあらぐくるさまる。[三十一]いたくく
ゝせとさきるのぎものとをきうげんでもあたちるゝたるのの
より一人ゝいきぐれぎものそれきさもむをうけぐ。

第十七章

[一節]ゐそてゝぎものいひていひたくアゐまるくとなきを
のさそぐさろものそれとのてアゐまるくとのいるへはぐたひなる
クか。[二]はそてゝきのをアゐまらをよりへとりてもうをいゝを
そのくぐよかけてうるよなげらるへきされり。[三]ゐんぢらこぐらきさよ
つゝむべゝさやうぐゐんぢよつをろれぐもあたちそれをいさり

よんやあべきをあたちこれをゆるせよ。四のゝ一十日よりそどゐんぢよ
つまを名べきさ一十日よりそどおのれよひきかゝてゐれんやむと
いべゐんぢかあらべこれをゆるさん。
五のゝたゝつゝひぞゐゝよりひていたくゐれらよりゐんぢるとをんと
あゝよ。六ゐゝのいひあたくゐんぢらゐんぢるとをらゝのされの
どくゐらべきあたちひゝくのの本よ祖をゐきゝゐゝよゐられ
よといひつけべきさべ。七ゐんぢらがうちゐもおとをのりてのるひへ
さがゝてのるひへくひたくたらよりかゝれべたれらきあたちこれふざ
ゝゝきらくせおといひつけるや。八のよきづらゆめゝとそあゝ
おびをつゐれゐれよつゝきゐれよらゐゐてけちゐんぢけをんとら
ゐりといんべや。九ゐもおとをいひつけのきよおとあべこれよのり

がゝゝとせんや。一日ゐあらべと申す。十くのどくゐんぢらいひ
はけるきゐのとくくくせべきさおれをひゐきのゐもおとをと
ゝてなをべきをゐけをおとあひたりといゝよ。
十一ゐそゐるされんゐゆくゐさよをやとがゐゝとをきをとをり。十二ひと
けらよりて十人ゝのゐくさゐうのれよのゝれらをゐくたちゐをを
のげていたくゐそふゝゐれらとのたれをたまゝ。十四ゐそこれらを
ゝそいひあたくゆきておのれらをきゐりつゐさよゐせおと。十五ゆくをき
をあたちいさぎゐきとなる。十六それ一人ゝおのれがなをりゐるをゐそ
かゐりてゐゐゝてゐゐゝて十七ゐゐて弟よゐゐりをかゐを。十八ゐそのの
のきよゐうゐぶゝてのりがゝを。十九なれそれいまゝさよをや人たり。
二十ゐそのいひあたくいさぎゐきとなるのの人十人よのらべやそれ

九人へいぐくまゐる。代のだ〳〵のたまれ　ゐあめへ　いまぐかくりて
さあり　と　神　まかるものを　ゐんだ。それ　人　まいひていひあらたく　おきて
ゆけ　ゐんぢが　ゐんぎる　と　ゐんぢ　と　ゐを　〳〵　たり。
二十　ふへて　ものも　ホ　神の　ゐふいつ　きたる　やと　とたる　れば　ゐそ　の　いひあらたく
神の　ゐま　へ　それ　ぐる　と　ゐつ　より　へ　ゐんだ。　そま　ゐ　り　かく　ふ　ゐる　と
いんだ　神の　ゐま　も　ゐ　たち　ゐんぢ　ら　が　そろ　ま　ゐ　り。　きて　〳〵　ぐも　ホ
いひて　いひ　あらたく　ものと　きい　ゐる　ゐんぢ　ら　ゐん　ぐの　むすと　の　いち
ゐちを　ゐんと　ゐつ　ものれ　ぐも　ゐる　べ　ゐら　ば。　人　ゐんぢ　ら　ま　そ　ま　ゐ　り
かく　と　ま　ゐる　と　はげれ　ぐも　ゆく　と　なる　れ　ものが　と　なる　れ。　天の
いかび　かり　そま　きら　ゐ　きて　く　〳〵　と　ま　ひ　ゐる　が　ぢ　〳〵　ゐん　ぐの　むすと
きたる　日　も　きと　かくの　ぢ　〳〵。　たる　かゐ　ら　ば　きづ　はぶ　きま　ゐ　る　〳〵　と　を

うけて　代　世　ま　ものる。　代のが　きの　ぢく　それ　ひと　ぐ　はと　たと
よ　ゐ　り　と　〳〵　ゐ　る　と　ゐ　り　たり。　代の　ぐ　ゐれ　ぶれ　ま　ゐ　る　の　日　ま
ゐ　ぶ　て　ゐれ　ま　ぶ　ゐ　り　て　ものろ　〳〵　と　ま　ぶ　ゐ　たり　ゐん
げんの　むすと　の　日　も　きと　ものり。　ろて　が　きの　ぢく　その　ひと　ぐ　はと
たと　うり　かい　うま　きき　はく　り　たる　と　ゐ　り　たり。　ろて　そ　ぶま　と
いぐる　の　日　ホ　ゐ　ぶて　天の　ひい　ものろ　と　ゐら　〳〵　て　ものろ　〳〵　と　ゐ　ゐ　ものと。
ゐん　ぐの　むすと　の　ものら　れる　日　ま　きと　ものく　の　ぢと　〳〵。　それ　日　を　の
うま　ゐる　ものの　へ　それ　ものぐ　いま　ゐ　の　ものれば　ぐ　ぶて　これを　とる　と　なる　れ
ものら　ゐる　ものの　へ　ゐ　かる　と　なる　れ。　ろて　が　はと　れ　と　を　ものて　ゐ　ゐ　ゐる
で。　ものれ　が　いのち　と　きく　ゐん　と　ゐ　ものの　へ　ゐ　かる　て　これを　う　〳〵
ま　ゐ　これを　う　〳〵　ゐ　ゐん　と　きる　ものの　へ　ゐ　かる　て　これを　ぞん　ぜ。　ゐま　ゐん　ぢ　ら

よかるらんかの為る二人ゝひと祈ぎをよ却ぎてくせひとりハさられ
ひとりハ未あなれん。おんなあたりうをとひくをとおもてくをひとり
ハとられひとりハ未あなれん。あたりもらよのりひとりハさられひとり
ハ未あなれん。のろ〳〵いたくさゝらひびくよりひみたくクたね
のるところよ〳〵のとりのつまるあり。

第十八章　一節　あそ人きさよいのりていとそざるで〳〵とひんたをそをきうけて
いひみたく。るゆで〳〵ひらよさんぢん人のり弟をおそれば人とも
むちば。ゆめのりてきそていたくるれよのぎまるのれのりそたくハ
るげきげらるとはんをを。ひさ〳〵くしてうけそんばちよまげらら
おのひていたくるれ弟をおそれば人ともむちばとひんぢ。ゆめの
るれをるげらたをよよそかのらばそれきげらるとはぢそはれよ

きたりてるれをうまびさ〳〵くまるをきねのれん。わ〳〵のひみたくく
ふぎのさんぢん人のひよところをきけよ。弟のあらびさるたゝ
ひるあるおんぢろよいのりてそれこたゝのるひんおそ〳〵のよはのよ
それきげらるとはぢざらんや。るれうんおちらよはげんきげらるとはぢる
ゝやむやきうり。ろうもゆんぢんのひすとひたるきさせけんのろんぢる
ゝよのむんや。

かば人のりておれとぎさるとさてこそ人をかろんぢアる。あそ
さをゝとまろけてそれらよいひそひみたく。あたりのりててらよ
はぢりそひのるひとりハふハををひとりハまらぎやく人。ふハをを
ひとりたちそひのりていたくるまのぢ〳〵人ホねをびとぶぎひんらん
きるのれきさけまらぎゆく人よあたらばと弟よのりがたくと

おのれ。（十二）これいとよ日よりそこくとせあるとあたびきとあるところのとを
どよそれひとつとやどとを。（十三）ふぎゆく人へさわくたちて天よ月
とのげるとものくせたびおねをくきていたくこれつをのり弟のたれを
たまへ。（十四）月ゐんぢらよはげんみ人いとよかりてぎよなりたるハ
かれよ　ならびさらよ　きさわりけびゝおれと　たかく　をるのハ
かゐゝびとをきれんおのれとひきくをるのハかゐゝびのげられん。
（十五）ぞりこどもとたびをよのれのりてあそよなぐられんををのをむ。でゝ
ぞも　ゐてちうゝてこれゝとせある。（十六）あそこれゝとをきれとおたひて
いひあたくこぞりこどもこれふつくをゆゑてきんぎるをとゐれけび
弟　をよのるのハきさよかくのびをくの人なり。（十七）月きをよゐん
ぢゝよはげんおうを弟　をよとうけてこぞりとのびをくならざる

のハいるをとをあび。
（十八）なゐゐゝはゐさぞりのりてをひていたくよきゝちうこれきさよ
なゐを　ゐゝてのそくぞりゐきのいのちとあんや。あそのいひ
あたくゐんそこれをよきとをあよやひとり弟のわよハたれも
よきのれゐゝ。（二十）それいをゝのぞもハゐんぢゞをるところゐりいんらんをる
をゐれところをとゐれわすむをゐれこぞうホちやうとをるをゐれ
ゐんぢゞ父母をつゝのよと。（二十一）をたそいたくこれころゝゝをきより
をくこれをまある。（二十二）あそそれをきそいひあたくゐれひとつと
くるをくのるところをうりそのそきびゝきををふをきハ
をあをちかあらびをよたゝりゝりこれよをきりてこれよをゝ。
（二十三）それ人これをきそををんぶうわよおわひよとをるゆゝゐり。（二十四）あそそれ

うれひ　なかんづく　きを　ひそめ　いひ　ひろめ　たつとぶ　のみに　非ざる
ること　かなり。二十五　らく　ざ　なりの　用より　をる　と　ある　人非　ふ
るより　さらに　やす〜。二十六　きく　のみに　いたく　ろらば　をるべき　これ
をくふ　ことを　ろるや。二十七　いひ　ひろめ　たく　人の　のさざる　ところ　人非　これを　よく
を。二十八　ぺてろが　いたく　これら　ことを　ろか　をて　さり　のあと　に　ろさず。
二十九　いひ　ひろめ　たく　ほき　ことに　うんぢ　ら　に　はげん　人非　ふの　さあふ　家　父
母　きやう　ぶつ　の子　に　なるれて。三十　ろう〜ていまの　きかば　十ぢん
をる　ことを　ろべ　きさる　世　かぎり　なき　いのち　を　ろざる　のれ　へいまず
これ　のらば。
三十一　ろそ　十二　の　で〜　と　ぶざ　ろて　これに　いひて　いひ　ひろめ　たく　これら
ろる　されん　に　はげら　ん　さき　ろる　のれ　ぞもあん　ぐん　の　ひすと　とゆび

ざ〜て　かき　はせ　たる　へ　と　ぐく　かるらば　ろやう　ことなる。三十二　ろ　きさふ
わろれ　たぐひ　ぞも　に　ほなされ　ぬざ　ものれ　ぬば　のあぞられ　つなき　せらる。
三十三　きさ　これを　ひら　うう　ろろ　さん　と　を　三　日　ホ　り　きぞ　ら　ん。四十四　仏　と　ぶ　くるふ
ようて　で〜　ぞも　ひ　まぞ　たう　せば　し　ていふ　ところを　ろらば。
三十五　ろて　と　に　ち　分ぐく　ときめ　く　ら　の　れ　の　ろて　ろち　の　ろた　ら　に　ぶざ　〜て
ふ。三十六　のろ〜の　ぞぎる　と　きて　それ　ゆを　とひ　さり。三十七　ねざれ　の　ろそ
ぞぎる　といふ。三十八　めく　ら　の　れ　ようて　いたく　ざひて　の　ひすと　ろそ　ろ　に　き
と　の　れを　たまふ。三十九　ゆく　の　れ　これを　ひて　の　く　と　せ　〜　ん　と
を。四十　かまの　ように　〜　ようて　いたく　ざひて　の　ひすと　に　れを　の　れを　さまふ。
ろそ　ろまり　て　これを　たぐさん　きられ　といふ　はけ　ひふ　きなる　に
ひふ　ぐく　これを　とひて　いひ　ひたく　に　ゆを　ろ　せん　と　ひろ　ぞるや。

図十二

図十三

図十四

図十五

図十六

図十七

図十八

図十九

図二十

図二十一

図二十二

図二十三

図二十四

図二十五

図二十六

図二十七

図二十八

図二十九

図三十

図三十一

図三十二

図三十三

図三十四

図三十五

図三十六

図三十七

図三十八

図三十九

図四十

図四十一

図四十二

図四十三

図四十四

図四十五

図四十六

図四十七

図四十八

図四十九

図五十

図五十一

図五十二

図五十三

図五十四

図五十五

図五十六

図五十七

図五十八

図五十九

図六十

図六十一

図六十二

図六十三

図六十四

図六十五

図六十六

図六十七

図六十八

図六十九

図七十

図七十一

図七十二

図七十三

図七十四

図七十五

図七十六

図七十七

図七十八

図七十九

図八十

図八十一

図八十二

図八十三

図八十四

図八十五

図八十六

図八十七

図八十八

図八十九

図九十

図九十一

図九十二

図九十三

図九十四

図九十五

図九十六

図九十七

図九十八

図九十九

図百

図百一

図百二

図百三

図百四

図百五

図百六

図百七

図百八

図百九

図百十

図百十一

図百十二

図百十三

図百十四

図百十五

図百十六

図百十七

図百十八

図百十九

図百二十

図百二十一

図百二十二

図百二十三

図百二十四

図百二十五

図百二十六

図百二十七

図百二十八

図百二十九

図百三十

図百三十一

図百三十二

図百三十三

図百三十四

図百三十五

図百三十六

図百三十七

図百三十八

図百三十九

図百四十

図百四十一

図百四十二

図百四十三

図百四十四

図百四十五

図百四十六

図百四十七

図百四十八

図百四十九

図百五十

図百五十一

図百五十二

図百五十三

図百五十四

図百五十五

図百五十六

図百五十七

図百五十八

図百五十九

図百六十

図百六十一

図百六十二

図百六十三

図百六十四

図百六十五

図百六十六

図百六十七

図百六十八

図百六十九

図百七十

図百七十一

図百七十二

図百七十三

図百七十四

図百七十五

図百七十六

図百七十七

図百七十八

図百七十九

図百八十

図百八十一

図百八十二

図百八十三

図百八十四

図百八十五

図百八十六

図百八十七

図百八十八

図百八十九

図百九十

図百九十一

図百九十二

図百九十三

図百九十四

図百九十五

図百九十六

図百九十七

図百九十八

図百九十九

図二百

図二百一

図二百二

図二百三

図二百四

図二百五

図二百六

図二百七

図二百八

図二百九

図二百十

図二百十一

図二百十二

図二百十三

図二百十四

図二百十五

図二百十六

図二百十七

図二百十八

図二百十九

図二百二十

図二百二十一

図二百二十二

図二百二十三

図二百二十四

図二百二十五

図二百二十六

図二百二十七

図二百二十八

図二百二十九

図二百三十

図二百三十一

図二百三十二

図二百三十三

図二百三十四

図二百三十五

図二百三十六

図二百三十七

図二百三十八

図二百三十九

図二百四十

図二百四十一

図二百四十二

図二百四十三

図二百四十四

図二百四十五

図二百四十六

図二百四十七

図二百四十八

図二百四十九

図二百五十

図二百五十一

図二百五十二

図二百五十三

図二百五十四

図二百五十五

図二百五十六

図二百五十七

図二百五十八

図二百五十九

図二百六十

図二百六十一

図二百六十二

図二百六十三

図二百六十四

図二百六十五

図二百六十六

図二百六十七

図二百六十八

図二百六十九

図二百七十

図二百七十一

図二百七十二

図二百七十三

図二百七十四

図二百七十五

図二百七十六

図二百七十七

図二百七十八

図二百七十九

図二百八十

図二百八十一

図二百八十二

図二百八十三

図二百八十四

図二百八十五

図二百八十六

図二百八十七

図二百八十八

図二百八十九

図二百九十

図二百九十一

図二百九十二

図二百九十三

図二百九十四

図二百九十五

図二百九十六

図二百九十七

図二百九十八

図二百九十九

図三百

図三百一

図三百二

図三百三

図三百四

図三百五

図三百六

図三百七

図三百八

図三百九

図三百十

図三百十一

図三百十二

図三百十三

図三百十四

図三百十五

図三百十六

図三百十七

図三百十八

図三百十九

図三百二十

図三百二十一

図三百二十二

図三百二十三

図三百二十四

図三百二十五

図三百二十六

図三百二十七

図三百二十八

図三百二十九

図三百三十

図三百三十一

図三百三十二

図三百三十三

図三百三十四

図三百三十五

図三百三十六

図三百三十七

図三百三十八

図三百三十九

図三百四十

図三百四十一

図三百四十二

図三百四十三

図三百四十四

図三百四十五

図三百四十六

図三百四十七

図三百四十八

図三百四十九

図三百五十

図三百五十一

図三百五十二

図三百五十三

図三百五十四

図三百五十五

図三百五十六

図三百五十七

図三百五十八

図三百五十九

図三百六十

図三百六十一

図三百六十二

図三百六十三

図三百六十四

図三百六十五

図三百六十六

図三百六十七

図三百六十八

図三百六十九

図三百七十

図三百七十一

図三百七十二

図三百七十三

図三百七十四

図三百七十五

図三百七十六

図三百七十七

図三百七十八

図三百七十九

図三百八十

図三百八十一

図三百八十二

図三百八十三

図三百八十四

図三百八十五

図三百八十六

図三百八十七

図三百八十八

図三百八十九

図三百九十

図三百九十一

図三百九十二

図三百九十三

図三百九十四

図三百九十五

図三百九十六

図三百九十七

図三百九十八

図三百九十九

図四百

図四百一

図四百二

図四百三

図四百四

図四百五

図四百六

図四百七

図四百八

図四百九

図四百十

図四百十一

図四百十二

図四百十三

図四百十四

図四百十五

図四百十六

図四百十七

図四百十八

図四百十九

図四百二十

図四百二十一

図四百二十二

図四百二十三

図四百二十四

図四百二十五

図四百二十六

図四百二十七

図四百二十八

図四百二十九

図四百三十

図四百三十一

図四百三十二

図四百三十三

図四百三十四

図四百三十五

図四百三十六

図四百三十七

図四百三十八

図四百三十九

図四百四十

図四百四十一

図四百四十二

図四百四十三

図四百四十四

図四百四十五

図四百四十六

図四百四十七

図四百四十八

図四百四十九

図四百五十

図四百五十一

図四百五十二

図四百五十三

図四百五十四

図四百五十五

図四百五十六

図四百五十七

図四百五十八

図四百五十九

図四百六十

図四百六十一

図四百六十二

図四百六十三

図四百六十四

図四百六十五

図四百六十六

図四百六十七

図四百六十八

図四百六十九

図四百七十

図四百七十一

図四百七十二

図四百七十三

図四百七十四

図四百七十五

図四百七十六

図四百七十七

図四百七十八

図四百七十九

図四百八十

図四百八十一

図四百八十二

図四百八十三

図四百八十四

図四百八十五

図四百八十六

図四百八十七

図四百八十八

図四百八十九

図四百九十

図四百九十一

図四百九十二

図四百九十三

図四百九十四

図四百九十五

図四百九十六

図四百九十七

図四百九十八

図四百九十九

図五百

図五百一

図五百二

図五百三

図五百四

図五百五

図五百六

図五百七

図五百八

図五百九

図五百十

図五百十一

図五百十二

図五百十三

図五百十四

図五百十五

図五百十六

図五百十七

図五百十八

図五百十九

図五百二十

図五百二十一

図五百二十二

図五百二十三

図五百二十四

図五百二十五

図五百二十六

図五百二十七

図五百二十八

図五百二十九

図五百三十

図五百三十一

図五百三十二

図五百三十三

図五百三十四

図五百三十五

図五百三十六

図五百三十七

図五百三十八

図五百三十九

図五百四十

図五百四十一

図五百四十二

図五百四十三

図五百四十四

図五百四十五

図五百四十六

図五百四十七

図五百四十八

図五百四十九

図五百五十

図五百五十一

図五百五十二

図五百五十三

図五百五十四

図五百五十五

図五百五十六

図五百五十七

図五百五十八

図五百五十九

図五百六十

図五百六十一

図五百六十二

図五百六十三

図五百六十四

図五百六十五

図五百六十六

図五百六十七

図五百六十八

図五百六十九

図五百七十

図五百七十一

図五百七十二

図五百七十三

図五百七十四

図五百七十五

図五百七十六

図五百七十七

図五百七十八

図五百七十九

図五百八十

図五百八十一

図五百八十二

図五百八十三

図五百八十四

図五百八十五

図五百八十六

図五百八十七

図五百八十八

図五百八十九

図五百九十

図五百九十一

図五百九十二

図五百九十三

図五百九十四

図五百九十五

図五百九十六

図五百九十七

図五百九十八

図五百九十九

図六百

図六百一

図六百二

図六百三

図六百四

図六百五

図六百六

図六百七

図六百八

図六百九

図六百十

図六百十一

図六百十二

図六百十三

図六百十四

図六百十五

図六百十六

図六百十七

図六百十八

図六百十九

図六百二十

図六百二十一

図六百二十二

図六百二十三

図六百二十四

図六百二十五

図六百二十六

図六百二十七

図六百二十八

図六百二十九

図六百三十

図六百三十一

図六百三十二

図六百三十三

図六百三十四

図六百三十五

図六百三十六

図六百三十七

図六百三十八

図六百三十九

図六百四十

図六百四十一

図六百四十二

図六百四十三

図六百四十四

図六百四十五

図六百四十六

図六百四十七

図六百四十八

図六百四十九

図六百五十

図六百五十一

図六百五十二

図六百五十三

図六百五十四

図六百五十五

図六百五十六

図六百五十七

図六百五十八

図六百五十九

図六百六十

図六百六十一

図六百六十二

図六百六十三

図六百六十四

図六百六十五

図六百六十六

図六百六十七

図六百六十八

図六百六十九

図六百七十

図六百七十一

図六百七十二

図六百七十三

図六百七十四

図六百七十五

図六百七十六

図六百七十七

図六百七十八

図六百七十九

図六百八十

図六百八十一

図六百八十二

図六百八十三

図六百八十四

図六百八十五

図六百八十六

図六百八十七

図六百八十八

図六百八十九

図六百九十

図六百九十一

図六百九十二

図六百九十三

図六百九十四

図六百九十五

図六百九十六

図六百九十七

図六百九十八

図六百九十九

図七百

図七百一

図七百二

図七百三

図七百四

図七百五

図七百六

図七百七

図七百八

図七百九

図七百十

図七百十一

図七百十二

図七百十三

図七百十四

図七百十五

図七百十六

図七百十七

図七百十八

図七百十九

図七百二十

図七百二十一

図七百二十二

図七百二十三

図七百二十四

図七百二十五

図七百二十六

図七百二十七

図七百二十八

図七百二十九

図七百三十

図七百三十一

図七百三十二

図七百三十三

図七百三十四

図七百三十五

図七百三十六

図七百三十七

図七百三十八

図七百三十九

図七百四十

図七百四十一

図七百四十二

図七百四十三

図七百四十四

図七百四十五

図七百四十六

図七百四十七

図七百四十八

図七百四十九

図七百五十

図七百五十一

図七百五十二

図七百五十三

図七百五十四

図七百五十五

図七百五十六

図七百五十七

図七百五十八

図七百五十九

図七百六十

図七百六十一

図七百六十二

図七百六十三

図七百六十四

図七百六十五

図七百六十六

図七百六十七

図七百六十八

図七百六十九

図七百七十

図七百七十一

図七百七十二

図七百七十三

図七百七十四

図七百七十五

図七百七十六

図七百七十七

図七百七十八

図七百七十九

図七百八十

図七百八十一

図七百八十二

図七百八十三

図七百八十四

図七百八十五

図七百八十六

図七百八十七

図七百八十八

図七百八十九

図七百九十

図七百九十一

図七百九十二

図七百九十三

図七百九十四

図七百九十五

図七百九十六

図七百九十七

図七百九十八

図七百九十九

図八百

図八百一

図八百二

図八百三

図八百四

図八百五

図八百六

図八百七

図八百八

図八百九

図八百十

図八百十一

図八百十二

図八百十三

図八百十四

図八百十五

図八百十六

図八百十七

図八百十八

図八百十九

図八百二十

図八百二十一

図八百二十二

図八百二十三

図八百二十四

図八百二十五

図八百二十六

図八百二十七

図八百二十八

図八百二十九

図八百三十

図八百三十一

図八百三十二

図八百三十三

図八百三十四

図八百三十五

図八百三十六

図八百三十七

図八百三十八

図八百三十九

図八百四十

図八百四十一

図八百四十二

図八百四十三

図八百四十四

図八百四十五

図八百四十六

図八百四十七

図八百四十八

図八百四十九

図八百五十

図八百五十一

図八百五十二

図八百五十三

図八百五十四

図八百五十五

図八百五十六

図八百五十七

図八百五十八

図八百五十九

図八百六十

図八百六十一

図八百六十二

図八百六十三

図八百六十四

図八百六十五

図八百六十六

図八百六十七

図八百六十八

図八百六十九

図八百七十

図八百七十一

図八百七十二

図八百七十三

図八百七十四

図八百七十五

図八百七十六

図八百七十七

図八百七十八

図八百七十九

図八百八十

図八百八十一

図八百八十二

図八百八十三

図八百八十四

図八百八十五

図八百八十六

図八百八十七

図八百八十八

図八百八十九

図八百九十

図八百九十一

図八百九十二

図八百九十三

図八百九十四

図八百九十五

図八百九十六

図八百九十七

図八百九十八

図八百九十九

図九百

図九百一

図九百二

図九百三

図九百四

図九百五

図九百六

図九百七

図九百八

図九百九

図九百十

図九百十一

図九百十二

図九百十三

図九百十四

図九百十五

図九百十六

図九百十七

図九百十八

図九百十九

図九百二十

図九百二十一

図九百二十二

図九百二十三

図九百二十四

図九百二十五

図九百二十六

図九百二十七

図九百二十八

図九百二十九

図九百三十

図九百三十一

図九百三十二

図九百三十三

図九百三十四

図九百三十五

図九百三十六

図九百三十七

図九百三十八

図九百三十九

図九百四十

図九百四十一

図九百四十二

図九百四十三

図九百四十四

図九百四十五

図九百四十六

図九百四十七

図九百四十八

図九百四十九

図九百五十

図九百五十一

図九百五十二

図九百五十三

図九百五十四

図九百五十五

図九百五十六

図九百五十七

図九百五十八

図九百五十九

図九百六十

図九百六十一

図九百六十二

図九百六十三

図九百六十四

図九百六十五

図九百六十六

図九百六十七

図九百六十八

図九百六十九

図九百七十

図九百七十一

図九百七十二

図九百七十三

図九百七十四

図九百七十五

図九百七十六

図九百七十七

図九百七十八

図九百七十九

図九百八十

図九百八十一

図九百八十二

図九百八十三

図九百八十四

図九百八十五

図九百八十六

図九百八十七

図九百八十八

図九百八十九

図九百九十

図九百九十一

図九百九十二

図九百九十三

図九百九十四

図九百九十五

図九百九十六

図九百九十七

図九百九十八

図九百九十九

図十百

図十百一

図十百二

図十百三

図十百四

図十百五

図十百六

図十百七

図十百八

図十百九

図十百十

図十百十一

図十百十二

図十百十三

図十百十四

図十百十五

図十百十六

図十百十七

図十百十八

図十百十九

図十百二十

図十百二十一

図十百二十二

図十百二十三

図十百二十四

図十百二十五

図十百二十六

図十百二十七

図十百二十八

図十百二十九

図十百三十

図十百三十一

図十百三十二

図十百三十三

図十百三十四

図十百三十五

図十百三十六

図十百三十七

図十百三十八

図十百三十九

図十百四十

図十百四十一

図十百四十二

図十百四十三

図十百四十四

図十百四十五

図十百四十六

図十百四十七

図十百四十八

図十百四十九

図十百五十

図十百五十一

図十百五十二

図十百五十三

図十百五十四

図十百五十五

図十百五十六

図十百五十七

図十百五十八

図十百五十九

図十百六十

図十百六十一

図十百六十二

図十百六十三

図十百六十四

図十百六十五

図十百六十六

図十百六十七

図十百六十八

図十百六十九

図十百七十

図十百七十一

図十百七十二

図十百七十三

図十百七十四

図十百七十五

図十百七十六

図十百七十七

図十百七十八

図十百七十九

図十百八十

図十百八十一

図十百八十二

図十百八十三

図十百八十四

図十百八十五

図十百八十六

図十百八十七

図十百八十八

図十百八十九

図十百九十

図十百九十一

図十百九十二

図十百九十三

図十百九十四

図十百九十五

図十百九十六

図十百九十七

図十百九十八

図十百九十九

図十一百

図十一百一

図十一百二

図十一百三

図十一百四

図十一百五

図十一百六

図十一百七

図十一百八

図十一百九

図十一百十

図十一百十一

図十一百十二

図十一百十三

図十一百十四

図十一百十五

図十一百十六

図十一百十七

図十一百十八

図十一百十九

図十一百二十

図十一百二十一

図十一百二十二

図十一百二十三

図十一百二十四

図十一百二十五

図十一百二十六

図十一百二十七

図十一百二十八

図十一百二十九

図十一百三十

図十一百三十一

図十一百三十二

図十一百三十三

図十一百三十四

図十一百三十五

図十一百三十六

図十一百三十七

図十一百三十八

図十一百三十九

図十一百四十

図十一百四十一

図十一百四十二

図十一百四十三

図十一百四十四

図十一百四十五

図十一百四十六

図十一百四十七

図十一百四十八

図十一百四十九

図十一百五十

図十一百五十一

図十一百五十二

図十一百五十三

図十一百五十四

図十一百五十五

図十一百五十六

図十一百五十七

図十一百五十八

図十一百五十九

図十一百六十

図十一百六十一

図十一百六十二

図十一百六十三

図十一百六十四

図十一百六十五

図十一百六十六

図十一百六十七

図十一百六十八

図十一百六十九

図十一百七十

図十一百七十一

図十一百七十二

図十一百七十三

図十一百七十四

図十一百七十五

図十一百七十六

図十一百七十七

図十一百七十八

図十一百七十九

図十一百八十

図十一百八十一

図十一百八十二

図十一百八十三

図十一百八十四

図十一百八十五

図十一百八十六

図十一百八十七

図十一百八十八

図十一百八十九

図十一百九十

図十一百九十一

図十一百九十二

図十一百九十三

図十一百九十四

図十一百九十五

図十一百九十六

図十一百九十七

図十一百九十八

図十一百九十九

図十二百

図十二百一

図十二百二

図十二百三

図十二百四

図十二百五

図十二百六

図十二百七

図十二百八

図十二百九

図十二百十

図十二百十一

図十二百十二

図十二百十三

図十二百十四

図十二百十五

図十二百十六

図十二百十七

図十二百十八

図十二百十九

図十二百二十

図十二百二十一

図十二百二十二

図十二百二十三

図十二百二十四

図十二百二十五

図十二百二十六

図十二百二十七

図十二百二十八

図十二百二十九

図十二百三十

図十二百三十一

図十二百三十二

図十二百三十三

図十二百三十四

図十二百三十五

図十二百三十六

図十二百三十七

図十二百三十八

図十二百三十九

図十二百四十

図十二百四十一

図十二百四十二

図十二百四十三

図十二百四十四

図十二百四十五

図十二百四十六

図十二百四十七

図十二百四十八

図十二百四十九

図十二百五十

図十二百五十一

図十二百五十二

図十二百五十三

図十二百五十四

図十二百五十五

図十二百五十六

図十二百五十七

図十二百五十八

図十二百五十九

図十二百六十

図十二百六十一

図十二百六十二

図十二百六十三

図十二百六十四

図十二百六十五

図十二百六十六

図十二百六十七

図十二百六十八

図十二百六十九

図十二百七十

図十二百七十一

図十二百七十二

図十二百七十三

図十二百七十四

図十二百七十五

図十二百七十六

図十二百七十七

図十二百七十八

図十二百七十九

図十二百八十

図十二百八十一

図十二百八十二

図十二百八十三

図十二百八十四

図十二百八十五

図十二百八十六

図十二百八十七

図十二百八十八

図十二百八十九

図十二百九十

図十二百九十一

図十二百九十二

図十二百九十三

図十二百九十四

図十二百九十五

図十二百九十六

図十二百九十七

図十二百九十八

図十二百九十九

図十三百

図十三百一

図十三百二

図十三百三

図十三百四

図十三百五

図十三百六

図十三百七

図十三百八

図十三百九

図十三百十

図十三百十一

図十三百十二

図十三百十三

図十三百十四

図十三百十五

図十三百十六

図十三百十七

図十三百十八

図十三百十九

図十三百二十

図十三百二十一

図十三百二十二

図十三百二十三

図十三百二十四

図十三百二十五

図十三百二十六

図十三百二十七

図十三百二十八

図十三百二十九

図十三百三十

図十三百三十一

図十三百三十二

図十三百三十三

図十三百三十四

図十三百三十五

図十三百三十六

図十三百三十七

図十三百三十八

図十三百三十九

図十三百四十

図十三百四十一

図十三百四十二

図十三百四十三

図十三百四十四

図十三百四十五

図十三百四十六

図十三百四十七

図十三百四十八

図十三百四十九

図十三百五十

図十三百五十一

図十三百五十二

図十三百五十三

図十三百五十四

図十三百五十五

図十三百五十六

図十三百五十七

図十三百五十八

図十三百五十九

図十三百六十

図十三百六十一

図十三百六十二

図十三百六十三

図十三百六十四

図十三百六十五

図十三百六十六

図十三百六十七

図十三百六十八

図十三百六十九

図十三百七十

図十三百七十一

図十三百七十二

図十三百七十三

図十三百七十四

図十三百七十五

図十三百七十六

図十三百七十七

図十三百七十八

図十三百七十九

図十三百八十

図十三百八十一

図十三百八十二

図十三百八十三

図十三百八十四

図十三百八十五

図十三百八十六

図十三百八十七

図十三百八十八

図十三百八十九

図十三百九十

図十三百九十一

図十三百九十二

図十三百九十三

図十三百九十四

図十三百九十五

図十三百九十六

図十三百九十七

図十三百九十八

図十三百九十九

図十四百

図十四百一

図十四百二

図十四百三

図十四百四

図十四百五

図十四百六

図十四百七

図十四百八

図十四百九

図十四百十

図十四百十一

図十四百十二

図十四百十三

図十四百十四

図十四百十五

図十四百十六

図十四百十七

図十四百十八

図十四百十九

図十四百二十

図十四百二十一

図十四百二十二

図十四百二十三

図十四百二十四

図十四百二十五

図十四百二十六

図十四百二十七

図十四百二十八

図十四百二十九

図十四百三十

図十四百三十一

図十四百三十二

図十四百三十三

図十四百三十四

図十四百三十五

図十四百三十六

図十四百三十七

図十四百三十八

図十四百三十九

図十四百四十

図十四百四十一

図十四百四十二

図十四百四十三

図十四百四十四

図十四百四十五

図十四百四十六

図十四百四十七

図十四百四十八

図十四百四十九

図十四百五十

図十四百五十一

図十四百五十二

図十四百五十三

図十四百五十四

図十四百五十五

図十四百五十六

図十四百五十七

図十四百五十八

図十四百五十九

図十四百六十

図十四百六十一

図十四百六十二

図十四百六十三

図十四百六十四

図十四百六十五

図十四百六十六

図十四百六十七

図十四百六十八

図十四百六十九

図十四百七十

図十四百七十一

図十四百七十二

図十四百七十三

図十四百七十四

図十四百七十五

図十四百七十六

図十四百七十七

図十四百七十八

図十四百七十九

図十四百八十

図十四百八十一

図十四百八十二

図十四百八十三

図十四百八十四

図十四百八十五

図十四百八十六

図十四百八十七

図十四百八十八

図十四百八十九

図十四百九十

図十四百九十一

図十四百九十二

図十四百九十三

図十四百九十四

図十四百九十五

図十四百九十六

図十四百九十七

図十四百九十八

図十四百九十九

図十五百

図十五百一

図十五百二

図十五百三

図十五百四

図十五百五

図十五百六

図十五百七

図十五百八

図十五百九

図十五百十

図十五百十一

図十五百十二

図十五百十三

図十五百十四

図十五百十五

図十五百十六

図十五百十七

図十五百十八

図十五百十九

図十五百二十

図十五百二十一

図十五百二十二

図十五百二十三

図十五百二十四

図十五百二十五

図十五百二十六

図十五百二十七

図十五百二十八

図十五百二十九

図十五百三十

図十五百三十一

図十五百三十二

図十五百三十三

図十五百三十四

図十五百三十五

図十五百三十六

図十五百三十七

図十五百三十八

図十五百三十九

図十五百四十

図十五百四十一

図十五百四十二

図十五百四十三

図十五百四十四

図十五百四十五

図十五百四十六

図十五百四十七

図十五百四十八

図十五百四十九

図十五百五十

図十五百五十一

図十五百五十二

図十五百五十三

図十五百五十四

図十五百五十五

図十五百五十六

図十五百五十七

図十五百五十八

図十五百五十九

図十五百六十

図十五百六十一

図十五百六十二

図十五百六十三

図十五百六十四

図十五百六十五

図十五百六十六

図十五百六十七

図十五百六十八

図十五百六十九

図十五百七十

図十五百七十一

図十五百七十二

図十五百七十三

図十五百七十四

図十五百七十五

図十五百七十六

図十五百七十七

図十五百七十八

図十五百七十九

図十五百八十

図十五百八十一

図十五百八十二

図十五百八十三

図十五百八十四

図十五百八十五

図十五百八十六

図十五百八十七

図十五百八十八

図十五百八十九

図十五百九十

図十五百九十一

図十五百九十二

図十五百九十三

図十五百九十四

図十五百九十五

図十五百九十六

図十五百九十七

図十五百九十八

図十五百九十九

図十六百

図十六百一

図十六百二

図十六百三

図十六百四

図十六百五

図十六百六

図十六百七

図十六百八

図十六百九

図十六百十

図十六百十一

図十六百十二

図十六百十三

図十六百十四

図十六百十五

図十六百十六

図十六百十七

図十六百十八

図十六百十九

図十六百二十

図十六百二十一

図十六百二十二

図十六百二十三

図十六百二十四

図十六百二十五

図十六百二十六

図十六百二十七

図十六百二十八

図十六百二十九

図十六百三十

図十六百三十一

図十六百三十二

図十六百三十三

図十六百三十四

図十六百三十五

図十六百三十六

図十六百三十七

図十六百三十八

図十六百三十九

図十六百四十

図十六百四十一

図十六百四十二

図十六百四十三

図十六百四十四

図十六百四十五

図十六百四十六

図十六百四十七

図十六百四十八

図十六百四十九

図十六百五十

図十六百五十一

図十六百五十二

図十六百五十三

図十六百五十四

図十六百五十五

図十六百五十六

図十六百五十七

図十六百五十八

図十六百五十九

図十六百六十

図十六百六十一

図十六百六十二

図十六百六十三

図十六百六十四

図十六百六十五

図十六百六十六

図十六百六十七

図十六百六十八

図十六百六十九

図十六百七十

図十六百七十一

図十六百七十二

図十六百七十三

図十六百七十四

図十六百七十五

図十六百七十六

図十六百七十七

図十六百七十八

図十六百七十九

図十六百八十

図十六百八十一

図十六百八十二

図十六百八十三

図十六百八十四

図十六百八十五

図十六百八十六

図十六百八十七

図十六百八十八

図十六百八十九

図十六百九十

図十六百九十一

図十六百九十二

図十六百九十三

図十六百九十四

図十六百九十五

図十六百九十六

図十六百九十七

図十六百九十八

図十六百九十九

図十七百

図十七百一

図十七百二

図十七百三

図十七百四

図十七百五

図十七百六

図十七百七

図十七百八

図十七百九

図十七百十

図十七百十一

図十七百十二

図十七百十三

図十七百十四

図十七百十五

図十七百十六

図十七百十七

図十七百十八

図十七百十九

図十七百二十

図十七百二十一

図十七百二十二

図十七百二十三

図十七百二十四

図十七百二十五

図十七百二十六

図十七百二十七

図十七百二十八

図十七百二十九

図十七百三十

図十七百三十一

図十七百三十二

図十七百三十三

図十七百三十四

図十七百三十五

図十七百三十六

図十七百三十七

図十七百三十八

図十七百三十九

図十七百四十

図十七百四十一

図十七百四十二

図十七百四十三

図十七百四十四

図十七百四十五

図十七百四十六

図十七百四十七

図十七百四十八

図十七百四十九

図十七百五十

図十七百五十一

図十七百五十二

図十七百五十三

図十七百五十四

図十七百五十五

図十七百五十六

図十七百五十七

図十七百五十八

図十七百五十九

図十七百六十

図十七百六十一

図十七百六十二

図十七百六十三

図十七百六十四

図十七百六十五

図十七百六十六

図十七百六十七

図十七百六十八

図十七百六十九

図十七百七十

図十七百七十一

図十七百七十二

図十七百七十三

図十七百七十四

図十七百七十五

図十七百七十六

図十七百七十七

図十七百七十八

図十七百七十九

図十七百八十

図十七百八十一

図十七百八十二

図十七百八十三

図十七百八十四

図十七百八十五

図十七百八十六

図十七百八十七

図十七百八十八

図十七百八十九

図十七百九十

図十七百九十一

図十七百九十二

図十七百九十三

図十七百九十四

図十七百九十五

図十七百九十六

図十七百九十七

図十七百九十八

図十七百九十九

図十八百

図十八百一

図十八百二

図十八百三

図十八百四

図十八百五

図十八百六

図十八百七

図十八百八

図十八百九

図十八百十

図十八百十一

図十八百十二

図十八百十三

図十八百十四

図十八百十五

図十八百十六

図十八百十七

図十八百十八

図十八百十九

図十八百二十

図十八百二十一

図十八百二十二

図十八百二十三

図十八百二十四

図十八百二十五

図十八百二十六

図十八百二十七

図十八百二十八

図十八百二十九

図十八百三十

図十八百三十一

図十八百三十二

図十八百三十三

図十八百三十四

図十八百三十五

図十八百三十六

図十八百三十七

図十八百三十八

図十八百三十九

図十八百四十

図十八百四十一

図十八百四十二

図十八百四十三

図十八百四十四

図十八百四十五

図十八百四十六

図十八百四十七

図十八百四十八

図十八百四十九

図十八百五十

図十八百五十一

図十八百五十二

図十八百五十三

図十八百五十四

図十八百五十五

図十八百五十六

図十八百五十七

図十八百五十八

図十八百五十九

図十八百六十

図十八百六十一

図十八百六十二

図十八百六十三

図十八百六十四

図十八百六十五

図十八百六十六

図十八百六十七

図十八百六十八

図十八百六十九

図十八百七十

図十八百七十一

図十八百七十二

図十八百七十三

図十八百七十四

図十八百七十五

図十八百七十六

図十八百七十七

図十八百七十八

図十八百七十九

図十八百八十

図十八百八十一

図十八百八十二

図十八百八十三

図十八百八十四

図十八百八十五

図十八百八十六

図十八百八十七

図十八百八十八

図十八百八十九

図十八百九十

図十八百九十一

図十八百九十二

図十八百九十三

図十八百九十四

図十八百九十五

図十八百九十六

図十八百九十七

図十八百九十八

図十八百九十九

図十九百

図十九百一

図十九百二

図十九百三

図十九百四

図十九百五

図十九百六

図十九百七

図十九百八

図十九百九

図十九百十

図十九百十一

図十九百十二

図十九百十三

図十九百十四

図十九百十五

図十九百十六

図十九百十七

図十九百十八

図十九百十九

図十九百二十

図十九百二十一

図十九百二十二

図十九百二十三

図十九百二十四

図十九百二十五

図十九百二十六

図十九百二十七

図十九百二十八

図十九百二十九

図十九百三十

図十九百三十一

図十九百三十二

図十九百三十三

図十九百三十四

図十九百三十五

図十九百三十六

図十九百三十七

図十九百三十八

図十九百三十九

図十九百四十

図十九百四十一

図十九百四十二

図十九百四十三

図十九百四十四

図十九百四十五

図十九百四十六

図十九百四十七

図十九百四十八

図十九百四十九

図十九百五十

図十九百五十一

図十九百五十二

図十九百五十三

図十九百五十四

図十九百五十五

図十九百五十六

図十九百五十七

図十九百五十八

図十九百五十九

図十九百六十

図十九百六十一

図十九百六十二

図十九百六十三

図十九百六十四

図十九百六十五

図十九百六十六

図十九百六十七

図十九百六十八

図十九百六十九

図十九百七十

図十九百七十一

図十九百七十二

図十九百七十三

図十九百七十四

図十九百七十五

図十九百七十六

図十九百七十七

図十九百七十八

図十九百七十九

図十九百八十

図十九百八十一

図十九百八十二

図十九百八十三

図十九百八十四

図十九百八十五

図十九百八十六

図十九百八十七

図十九百八十八

図十九百八十九

図十九百九十

図十九百九十一

図十九百九十二

図十九百九十三

図十九百九十四

図十九百九十五

図十九百九十六

図十九百九十七

図十九百九十八

図十九百九十九

図二十百

図二十百一

図二十百二

図二十百三

図二十百四

図二十百五

図二十百六

図二十百七

図二十百八

図二十百九

図二十百十

図二十百十一

図二十百十二

図二十百十三

図二十百十四

図二十百十五

図二十百十六

図二十百十七

図二十百十八

図二十百十九

図二十百二十

図二十百二十一

図二十百二十二

図二十百二十三

図二十百二十四

図二十百二十五

図二十百二十六

図二十百二十七

図二十百二十八

図二十百二十九

図二十百三十

図二十百三十一

図二十百三十二

図二十百三十三

図二十百三十四

図二十百三十五

図二十百三十六

図二十百三十七

図二十百三十八

図二十百三十九

図二十百四十

図二十百四十一

図二十百四十二

図二十百四十三

図二十百四十四

図二十百四十五

図二十百四十六

図二十百四十七

図二十百四十八

図二十百四十九

図二十百五十

図二十百五十一

図二十百五十二

図二十百五十三

図二十百五十四

図二十百五十五

図二十百五十六

図二十百五十七

図二十百五十八

図二十百五十九

図二十百六十

図二十百六十一

図二十百六十二

図二十百六十三

図二十百六十四

図二十百六十五

図二十百六十六

図二十百六十七

図二十百六十八

図二十百六十九

図二十百七十

図二十百七十一

図二十百七十二

図二十百七十三

図二十百七十四

図二十百七十五

図二十百七十六

図二十百七十七

図二十百七十八

図二十百七十九

図二十百八十

図二十百八十一

図二十百八十二

図二十百八十三

図二十百八十四

図二十百八十五

図二十百八十六

図二十百八十七

図二十百八十八

図二十百八十九

図二十百九十

図二十百九十一

図二十百九十二

図二十百九十三

図二十百九十四

図二十百九十五

図二十百九十六

図二十百九十七

図二十百九十八

図二十百九十九

図二十一百

図二十一百一

図二十一百二

図二十一百三

図二十一百四

図二十一百五

図二十一百六

図二十一百七

図二十一百八

図二十一百九

図二十一百十

図二十一百十一

図二十一百十二

図二十一百十三

図二十一百十四

図二十一百十五

図二十一百十六

図二十一百十七

図二十一百十八

図二十一百十九

図二十一百二十

図二十一百二十一

図二十一百二十二

図二十一百二十三

図二十一百二十四

図二十一百二十五

図二十一百二十六

図二十一百二十七

図二十一百二十八

図二十一百二十九

図二十一百三十

図二十一百三十一

図二十一百三十二

図二十一百三十三

図二十一百三十四

図二十一百三十五

図二十一百三十六

図二十一百三十七

図二十一百三十八

図二十一百三十九

図二十一百四十

図二十一百四十一

図二十一百四十二

図二十一百四十三

図二十一百四十四

図二十一百四十五

図二十一百四十六

図二十一百四十七

図二十一百四十八

図二十一百四十九

図二十一百五十

図二十一百五十一

図二十一百五十二

図二十一百五十三

図二十一百五十四

図二十一百五十五

図二十一百五十六

図二十一百五十七

図二十一百五十八

図二十一百五十九

図二十一百六十

図二十一百六十一

図二十一百六十二

図二十一百六十三

図二十一百六十四

図二十一百六十五

図二十一百六十六

図二十一百六十七

図二十一百六十八

図二十一百六十九

図二十一百七十

図二十一百七十一

図二十一百七十二

図二十一百七十三

図二十一百七十四

図二十一百七十五

図二十一百七十六

図二十一百七十七

図二十一百七十八

図二十一百七十九

図二十一百八十

図二十一百八十一

図二十一百八十二

図二十一百八十三

図二十一百八十四

図二十一百八十五

図二十一百八十六

図二十一百八十七

図二十一百八十八

図二十一百八十九

図二十一百九十

図二十一百九十一

図二十一百九十二

図二十一百九十三

図二十一百九十四

図二十一百九十五

図二十一百九十六

図二十一百九十七

図二十一百九十八

図二十一百九十九

図二十二百

図二十二百一

図二十二百二

図二十二百三

図二十二百四

図二十二百五

図二十二百六

図二十二百七

図二十二百八

図二十二百九

図二十二百十

図二十二百十一

図二十二百十二

図二十二百十三

図二十二百十四

図二十二百十五

図二十二百十六

図二十二百十七

図二十二百十八

図二十二百十九

図二十二百二十

図二十二百二十一

図二十二百二十二

図二十二百二十三

図二十二百二十四

図二十二百二十五

図二十二百二十六

図二十二百二十七

図二十二百二十八

図二十二百二十九

図二十二百三十

図二十二百三十一

図二十二百三十二

図二十二百三十三

図二十二百三十四

図二十二百三十五

図二十二百三十六

図二十二百三十七

図二十二百三十八

図二十二百三十九

図二十二百四十

図二十二百四十一

図二十二百四十二

図二十二百四十三

図二十二百四十四

図二十二百四十五

図二十二百四十六

図二十二百四十七

図二十二百四十八

図二十二百四十九

図二十二百五十

図二十二百五十一

図二十二百五十二

図二十二百五十三

図二十二百五十四

図二十二百五十五

図二十二百五十六

図二十二百五十七

図二十二百五十八

図二十二百五十九

図二十二百六十

図二十二百六十一

図二十二百六十二

図二十二百六十三

図二十二百六十四

図二十二百六十五

図二十二百六十六

図二十二百六十七

図二十二百六十八

図二十二百

いひていたくぜん〳〵して弓がかるをまてよ。十四さてかんきやうのさまこれをうらまてう〳〵ろよはかひをやりて弓れらは人弓きさまるとかうせばといふ。十五さる〳〵今よとをそかりこれをそれくねをのぶのちんりをもとよどといひはけてそれ〳〵のきうひ〳〵てもとくとをるといくわどたるをちらんとかうは。十六そのいちぜんめきさりていたくきさのいちきんもぐよ十きんををさり。十七いたくよ〳〵よるがくかかそのもこ〳〵きのよかりてもぐよさぐ〳〵くもをあたちをのやうとはかさぐりてちゃなり。十八そのよぜんめきさりていたくきさのいちきんもぐよのきんををさり。十九いたくあッかりをはかさぐりてちゃうり。二十きさぐりのきさりていたくきさのいちきんそよのりてふくさのうちよかさかうり。二十一けぐ〳〵弓きうんぢをかをるかぐそちうんぢとかをるのれへこれをとりていまぐちかるのれへ

人なりいまぐちきさるのれへこれをとりていまぐちかるのれへこれをかりかをる。二十二わ〳〵のいたくの〳〵きちもかをとちかうんぢグちよよりそ弓れうんぢをきもぐふ弓れかぐそちよ〳〵ていまぐかきさるのをちりいまぐちかるのをかりかをるとちる。二十三うんぢ弓がかねをのりてちねきせよをかぐるやぐきさるときそれをぎんをのたせてちかう〳〵て弓きいたりてこれをちるべ〳〵。二十四つかふさゆ〳〵のよいひはけてそれいちきんをちりてそれ十きんのるのれよのたんよと。二十五いたくきさかりもぐよ十きんのる。二十六いたくぐうんぢちかつげんのるのれへもさこれよのたんらるなきのれへそれのるところもきさうたる。二十七さそれぐかのれちがきさたるをかうせば〳〵てぐうんぢきとちるのれそくひきさたりてぐうんぢちよとうせか。

二十八 あそいひそたりて むさゝ ゆきて あるされん よ はりあるよ。べへげ
べたれと よいたりて むりやまよ ちかづきて で〜 ふたりとゆりて
いひあるたく。二十 ゑんぢらき人の ひらよ ゆけよ いるときこうさぎ ひよ
はあげれて のとうり人の はる ことのらざる のれ よ のよ ときて これを
ひけよ。二十一 人ゑんぢらと ゑんそ これを とく やと とたり ゆ〜 のこれを
のとむとこたへよ。二十二 つかた〜 こる のの ぞも ゆきて むさ〜 てのよ こそれ
こそのどし。二十三 これを とく とき その ゆ〜 ぞも ゑんそ これを とく やと
よ。二十四 いたく ゆ〜 これを のとむ。二十五 つゆふひきて あそ よ はく。こるも と
こるのうよ ときて あそ とこれよ ひらそ。二十六 ゆく とき こるも とのて
こちよ こるく。二十七 むさ ちかづき て むさよ むりやまの ふのとよ ゆて
ひらがりので〜 ぞもよろこびて こあきこ〜 て 非とゆりて のろ〜〜

ゑんぢこるとこるのいきゆひゆる ゆるこざの こあ。二十八 いたく ゆ〜 の名と たのこて
きたるのて 万のさいたひくか天 ホのりて このんでくうこひぶりさこる。
二十九 のろ〜〜 のうちかびのふへそ ぞものりて あそ ホゆひて いたくせん
せひゑんぢので〜 ぞもと せあよ。三十 こたへて いひあたく これゑんぢら
よつげんこれらのくせひ〜 むあんちこ このらん。
三十一 むさこよ ちかづきて ちろと ゑこて なきて いひあたく。三十二 のゑんぢ ゑんぢ ゑん
ぢゲ日よ のりて ゑんぢゲ このんよ かるこを ゆりこく。今へゑん
ぢゲ日よ かくれり。三十三 むさ日 いたるて きかあらば こそ とつて めぐり
めぐら〜て〜 むろ よりゑんぢと せあんと〜て。三十四 ゑんぢと子ぞもと を
はとあるべく こひらげて ゆ〜 と ゆ〜 のうよ はこそば ゑんぢあれ
ゲかりこらこの日と こらざるとのそなり。

四十五 あそ てらよりいりて かう ゐき もるのをおひて。四十六 いひ ゐたくかき
ゐるを よこをのり ほげ まやいのる まやとは ゐんぢらこれをのりてゐも
びとのかとを。四十七 あそ ひ てらよのりて そ〜人ゐよ きくり はかさの
かゝらぐく ゐや こゝのらう ゐや ぞもとこれを わろやさん と わろ
を。四十八 そ なゐも なを と を ゐび のろ〳〵 これを ちひ きく よ
よりて なり。

第二十章 一師 一日 あそ てらよのりて こゝを そ〜そ よろこびの ゐをびれと
はこよ ときき きくり はかさのかゝらぐく ゐや らう ゐや ぞもとこれよ
はきていたく。二 こゝく へ ほれら よは ほげ よ ゐんぢ ゐんのいきわひと
のそ これを おこゐよ や ゐんぢ よ ひ いきわひ と こまひ こる のの
これを。三 あそのこゝをそいひ ゐたく ほれも きこいちごんと ゐんぢら

よ ときんこゝく へ ほれよ こゝ人 ゐ。四 よゐんのらよれひ ちる へ 天 よりう
人 よりう。五 それ 人 ひそゐよ ゐゐりていたく 天 よりといを くれ ゐゐび
ゐんをこれをちんぜざるやといたん。六 人 人 よりといを こを かゐび ほれら
とい〜ゐそ なげ うう けど たを へ よゐんと こを ちる のれと ゐのよ。
七 はゐよ こゝをそいげく よりう ちらびといよ。八 あそのいひ ゐたく ほれも
きこ なふのいきわひとのそこれ と とちると ゐんぢらよ つげび。
九 いを〜 こを人 ゐよ〜 と きうけそのろ〳〵 よいひていひ ゐたく なよ
げ〜人 ぶぞう とうるのそのを はくり て はうふよ これを きう〜て
ちゐう 〜そ のだ〜のちゐをよ ゆきそ ひこ〜く よ ちたり。十 かぎり よ
おうびて ちも おを と ゆりて はう ふよ はきて そのうちをこむ べきの
ぐのをおら〜めん。はう ふへ これを こきていたげら ホ ゐら〜む。

十一 ふさびべうのものおとこをゆるこれをもさきてのうぎりもちゐてゆ
いさびらまうくらしむ。三十二 ぜんのものをゆるこれをもうちさびして
おひいだすも。十三 そのわしのいたくまさまいあんとせん。のひまる
おすことをゆらねばならねこれをあてそうあうしてもちんか。十四 ばうふそのの
おすことをあそひそのまうあもりていたくこれいましそのものとうぎいざ
きさこれよこれをこうしてそのゆびりまれらまぞくせん。十五 はあまそのの
りあうおひてこうしこう。そのわしもさなみをのうそこれらとそうん
や。十六 かるびきさうてそあうしてはばうふとやうあしてそのとのうそ
びうのかのびけん。さくのものもいたくあびたくへこれなるこうらん。
十七 あそこれらまは はけていひかうたくかきそるもまはびくぞまは
もそるのいしのさまいしとなるとうんのいふそや。十八 はいし

のうんまはまびきさそるのへうあらびそりゆふれるきさこのいし
そのうんまおとせびかるらびこれをとまも。十九 きまはきまりはあさの
かしらびくそやぞもとあそはさそしてあのれらを
ゆびさもとをそりてこれをからうんとうもされぞもさをあそる。
二十 いは これをうるひてさびりびをやりていたりてあのれらをぎうる
のものもとそうれのとををかすりてぶぎやうのいきわひふらせん
とも。二十一 はあまとひていたくせんせへこれらまんちがいふそろそし
さそろまかさしきまはしてかうちとのうて人をとらびいまきと
とのうて弟のまちをつうるをそるる。二十二 まんぎをりあされまはそさあへ
よきやいるや。二十三 あそそのの しきたくまをそりていひかうたくまんそ
これをそろまるや。二十四 かれいちのんめをとりてこれふませよ。はうちち

と云るゝと云れそや。そさて いたくゝ云されそ。いひ[二十五]たくゝ
云からべゝ云されのをのそゝ云されホをさて弟のをのそ
弟ヨをさめホ。さて[二十六]りのれぞ さゝのきよりてれのをを
かするをのそれそのえんそ、とめびをとゝてのくゝさう。
さびけ[二十七]ともがらいきがるをなきといよのかび人ありてつきてとひて
いたく。せん[二十八]せんせいもせのかきそるゝてこれらヨ云ゝていたく人
のさやうびはまのりて子なくゝて云うゝて云をきやうび
をあたちかヨがはまをめとりて子とうまらゝてれホつぎさする。
さやう[二十九]び七人のりちやう云やはまをめとりて子なくゝて云うゝ
ゝて云を。それ[三十]つぎの男これをめとりてきと子なくゝて云を。
それ[三十一]三男これをめとりてセッホあうびてきと云りまか子とはをを

とゝくゝて云うゝて云を。[三十二]まかがのとそれあんなもゝて云ゝ
たり。[三十三]云からべいきがるのさきはんなをがはまとをるやけび
これをめとりゝのれへ七人。[三十四]なそのいひはたくび世の人よの
りとゝめとるをとのり。[三十五]たをさをる世を名云をるよういきがる
ヨをうび たるのれへよのりとせびめとらび。[三十六]云をびをるを
のたんびいまゝ天のはまびのびくヨゝていきがの子ぞもたり
まさ弟の子ぞもとを。[三十七]云をるのれぞものいきがるをとろんぜびもせ
もをからのえんヨこれをつまびらうみをゝ云ゝとのべらたん
の弟いさけの弟やこべの弟とをあへ。[三十八]それ弟云をるのれぞも
の弟ヨのらびいまゝいきるのれぞもの弟なりけびゝかれホよそ
をあいきる。[三十九]ぐをやんびの人のいたくせんせんのよへよゝ。[四十]はちヨ

のそさふのれ　ず。

四十一　ゑそのろ〳〵よりひそいひかたく人ふれもとざひでのなすと
たるといふへゐんをや。けど　うとのうちよりざひでさびかりいひて
いたくゐ〳〵ふびゐ〳〵よりいたくふびさぎりよりざせお。四十二　ゐんぢの
てきとのそゐんぢがきやたつとなもきで。四十三　それざひでもぐよ
これをゐ〳〵とさあふれば　もあたちいかよ　〳〵て　おのれ　ゲ　なすと
たらんや。

四十五　たさ　ふさ　きくのときゑそで　〳〵ぎもよいひそいひかたく。四十六　つ〳〵ん
でぐくゑやと　ゑせげよかれらようこぶへながきころもときてのをび
いちでのうへ　ゆすきと　さんれそ　よりのひをよ　たかきへらひ　〳〵て
ゐ〳〵ろのひぐかさざ〳〵て。四十七　ゆゆのゥぐとなさりへらひそゥざり

てゐぐきいのりとゐをそこれらつさをうけるとへあらびさらよあり。

第二十一章　一節　ゑそとある人おくるのをゐれぐらふいれるとアそ。二きひとろ
のきぐ〳〵きゆのゥれの二をといれるとアる。三もあたちいひかたく
ふれきとよゐんぢらよつげんけきぐ〳〵きゆのいれるへのろ〳〵よ
へらびさらよおゆ〳〵。四けど〳〵のろ〳〵それのまりより非よおり
のをたそきるおんなへたらび〳〵てゐゥうと〳〵てゐるきろとと
ぐくいれる。

五　ある人てらのよきゆ〳〵よきおりのをのそかざるといふとき。
六　ゑそのいひかたくゐんぢらけをアそきを日のいなりてい〳〵
のうふおそ〳〵てとぐくおり〳〵そかなざるホをかび。七のろ〳〵の
きひそいたくせんせいうそれのりてをそうぎるときゐんのきざこ

ある や。[八] いひ ふるたくつゝして 人よ きぞんさるを うゐれ もさ おわき人
ありて ゐぐ 名を かをて きなりて ゐれくれ ゐと とうりと又 ときちろ
よるといたんと ゐ なんぢら これふ ゐ ゐが ふ と なられ。[九] うんぢら ゆくさと
ゐぶれと ときて おそる ゐ と なられ ふ と かあぶ きづ のり さ ゐ 名
の ゐぎり いまぶ いならば。[十] きさ いひ ふるたく たゐ ゐ さ たゐを のぶ ー
ゐよ きさ ゐよ を のぶ せんと ゐ。[十一] ところ く おわひ なる ゐ ゐ おき きんきと
名きれへ ありて 天より おそる べき の れ おわひ なる ゐ 色 ゐぶらんと ゐ。
[十二] ゐか ふ と の さき人 きさよ うんぢら を からめて ゐめ おひ よりの ひ
色 よ ゐ ー らう ゆよ ゐぶ ー ゐぶ 名の ゆよ すと つる ぎりと の
きふ ひき いならば ー めんと ゐ。[十三] うんぢら ふ と よ の ひて の て ゐやう
こと ゐ。[十四] うんぢら が ところ を さぶ め よ。なゐを の て つげる や と おわん

ぶ ゐる こと な ゐれ。[十五] けど ゐれ ゐ さ うんぢら ふ べん こう と さ ひ ち を の ゐ て
ゐろ ー ー の ゐぶ よく いひ ゐろ ゐ せぶ と の ゐ ゐぶらん。[十六] うんぢら ゐ さ
ゐ 母 きゆう ぶ ゐん せ きゆう ゆ よ うられて うんぢら のうち よ
ところ ゐれん の れ ゐ きさ の り。[十七] うんぢら ゐ ゐ の て の ゐ ー ー よ
ゆ ー ま る。[十八] ゐ ゐ も うんぢら が ー ー らの ゐ ゐ ひと ゐ ち ゐ ー ー ゐ ぶ。
[十九] うんぢら つ ー く ゐ の ぶ て さ ま ー ひ と ぞ ん ぜ よ。[二十] うんぢら ゆ く さ ゐ る さ れ ん
と め ぐ り ゐ か ゐ と ゐ く ゐ ゐ ゐ た ち ゐ れ ゆ ろ ぶ と ち ゐ よ る と ゐ る。[二十一] ゐ き
よ よ て や よ ゐ る の れ ゆ ま よ さ ゐ て ゐ ゐ と よ ゐ る の れ ゆ ゐ よ さ る
ぶ ー ゆ ゐ よ ゐ る の れ う ち よ ゆ ゐ る と な られ。[二十二] これ は ゐ ゐ を ゐ く よ の 日
ゐ き ゐ る ゐ と ところ ゐ ゐ か ゐ う ぎる ゐ あ ゆ り。[二十三] ふ ゐ き ゐ ら ぶ む の れ ち
と ゐ ま ゐ の の ぶ も れ ゐ ぶ ゐ ん ひ ゐ る か ゐ け ど この ち く ゐ か ゐ ら ぶ

おわひなるはづらひのりていうりこのさゝゑおよびて。やりかなかのむゑたをれて今ゝかさられて及るされんわれさくひぶもかゑまれんとせわるのたゝひぶものゝぶりまちきんまるまで。日月わ〜かあらびぶる〜のり他ゑのりてへゑゑ〜ゑはづらひおわひまぶれうゑなゑまあぶる。ひとゝぐ他のうゑならんとせるところとゑておそれてそろとう〜あゑゑいなる天のいきわひあるひうぶくゆゑなり。かのさきゆんぶんのおすとおれいきわひおれさろりとのゝてゑゑはりてきなるとまられんとせ。仏とのりたゞめるときゝふをのゞてのゝぶゞゞゑんちゝがゝひのぶさるちゝきとのゝてなり。とをまうけてこれゝかいひていひあたゝくゝきの木のろ〜〜の木とゝゑゝ。その木ゞめてまゞりきぶゞを とをまれゞ きゑあたちなろちゝゞくとまりね。ゝくのゞくうんぢゝ仏とまかなるとをまれゞきゑあたち神今ゑちゝよるとをまる。はれきとゑゑんぢゝはにゞん仏世いまゞきゞまるうちゝ仏とまかなる。天他きなるゞ〜はゞとゞゞきなるゞゞゝ。まゞゝゝはゝ〜めゝおそらくへゞちゝくゞゞちゝ世のおわひとのゝてかの日おわえゞゑんぢゝかゞゝん。おそひのまのゞくのまねく他のうへきまゑの人ゑはゞまん。ゆゝふさゝまりてはれゑいのまゝよのゝてきゞてこのきさらんとまるとをゝてゞはゞれてゑんゞんのおすとのまゝゑゑさゝゞ。

名そひるてらゑのりてゝ〜ゑ和へいゞゞ　ゆまゑいなりてやどりゑゑ。ゝゞ今きゑゆのさおきくてらゑいなりてかれをきゝんとき。

第二十二章

一 くろがなきのせうくさぐふちうりてきさぐるせうと
ゆふ。二 きうりつゆさのくらがくそやぐもと云そとろさんとも分りて
さぐたをそる。

三 よぐさいちうせう十二でしのかぐかぞくさる。さんくれがうち
ゆふる。四 はゆふきうりつゆさのかしらとつゆさぐもとゆきく云そ
とうらんとも。五 くれうよろこびくくれをのたんとゆくそくさ。六 よぐさ
うけそそそくさそらぐるのたうりをんぐきてそれをゆたさんとも。
七 くうがなきのせうきさゆ さぐるのきりこひうがとろもの
八 かぐうりのなれば。云そ べてうよんとをゆりていひたくゆんぢう
ゆきてせうくのきりとそあくゆふれうたん。九 いたくゆんのさろ
ゆこれをそあんとうりさる や。十 ひたくゆんぢうきりかれば

きうがをひうさげるのれゆんのたんそれふきうがひていひゆりて。
十一 それはしゆんはげていへよしきうりさんくへきやくざいがくゆ
のりてゆれてしぐもとともゆせうのきりとたんとさるや。十二 かれ
さあたちそゆくきうけたるのおりひなる二かくとりてゆんぢうゆ
きせんかしそゆのりてそゆくくうなり。十三 でしぐもゆきてたくて
ひたるとをうのひさうはゆゆせうのきりとそあく。
十四 ぐぶんゆのたりて云そ十二のりたうはうひとともゆせうろゆ
ざして。十五 ひたくたくがとうくるのさきゆゆせうのきりとなん
ぢうとともゆたんとむあたぐはがく。十六 ゆれゆんぢうゆひゆれきさ
それをたがく非くゆ却てそれきるしゆなるきで。十七 はゆゆさうがき
とりてひたくひたくそれをとりてゆんぢうがうちゆゆうて

のなかの人間がみんなそうだったのだ。[四十四]

ドーキョウ[四十五]

[illegible]

[illegible]

[illegible

のどくるらんとわつは。[二十二]たゞ是まんぢがさゆいのりてまんぢが
ちんずるをとう〳〵あんせざらんのちなりてさぞちくもるべちまんぢが
きやうぶいとかなくまはべ〜。[二十三]へてろがいたくさきゝらうやま
いれられてろさる、とも是まんぢとあまゆるんとそあんたり。[二十四]いひ
ろんちくへてろゝ是まんぢまはげんけんあたりなくのさきまん
ぢたさ三とび是をちらべといひさるをのらん。
[二十五]いま〜で〜ぞもまいひていひろちくは是まんぢらをゆるまふろ
な〜めれいれな〜ゝうなけれぞもゝけるをのりさるや。いたくは。
[二十六]いひろちくいまへあろろのるのへこれをとりのいれるのの
へきさろりかなかなきのへろもをうやてかなかをかへべ〜。
[二十七]是まんぢらかいふかきちる〜かいたくゝこれをこれべつゝをおろを

のうちまかぞえらるとは上べかあふべ是まおてそうぞる
けべ〜是をゆびざをのをくぐとぞまりかり。[二十八]で〜ぞもいたくさゝを
ちまふろのかなかかりいひろちくさる。
[二十九]及そいぞゝりとのどくたゆりやまゆくで〜ぞもこれまちべ
たり。[四十]それとろまいなれべで〜ぞもまいひていひろちくいのり
いのれまきべまいるをきねをれん。[四十一]はまこれらまむあれてさひ
べい〜となげるのわどひざをきげていのりて。[四十二]いひろちく父いうけ
ちゝろちくは つゆを是まりさまはれぞも是がちろかのらべ
さ是まんぢのちろまるをを及よ。[四十三]天のはまひ天よりのらんれて
これをかなくまは。[四十四]及そ人るゝいなゝていのるをいふ〳〵孫ん
ぢろまをのせへ血のちなるがどくはまある。[四十五]いのりとをたれべ

おきてで〜ぞものところへいたりてそれうれひもうたづね〜きかへして
ゐるかう〜て[四十六]ゐるとゐる。これらは[四十七]よりひていのひろたくうんそ[四十七]ゐる
やおきていのれよりまぶびよりるとをきねかれん。
なれのれいのひろよのひぐ人はらぐりきたる十二で〜ぞものひとり
よぐぞ[四十八]これらがさきよりゆきて[四十八]あそはきて人らをきたんとき。
あそのいのひろたくよぐぞうんぢ人らをきよとのそゐんぐんの
ひすとをうるう。さゆう[四十九]とのおうたんとゐるところをゐていたく
きをうれらいまかなかとめそうや。それ[五十]うちいちゐんおれ
きうりはかさのゐもおとをうちてまぐりまをきりむかき。[五十一]あそ
のいのひろたくこれまでゆるせよ。はかるよれがまをうぐなわき。
あそおのれよはくのきうりはかさのかーらてられはかさらりゐや

ぞもとよいひていのひろたくうんぢらかなかとはへとをのそきなり
てわをびとをふせぐがどくきるや。[五十二]ゐまひよるうんぢらとをのよ
てらよのう〜うんぢらまをはぐそゐれをうらめばいるへいま〜なん
ぢらがさきんらきのいきおひより。
[五十四]のう〜あそをからそこれをひきておれきうりはかさのいのよ
いなるぺてろとわくゐたがよ。[五十五]まやのなかよ人ありてひをのや〜て
おうぐくざぞ。ぺてろもおよざぞ。[五十六]げぢうありてぺてろひのきうふ
ざきるをゐてこまかよこれを「ゐてゐんたく仏人きさあそとをのふ
せ〜。[五十七]ぺてろうけがたぐ〜ておんるゐまこれをうらぐといふ。[五十八]ゐたらく
のとやきさいちゐんかれをゐていたくうんぢちきさそれさぐひより。
ぺてろがいたく人うゐれゐかぐぐ。[五十九]さんがぐ宮ときはちきさいちゐん

さだめていひていたく仏人まことをよかれとさあるよーしうけだ〜
がを、人ゐり。(六十)ぺてろいたく人ゐうはきゐんぢがいふところをきらだ。
さちまちそのいふのひごみたをりゐきれ。(六十一)ゐ〜ゐをかて〜てぺてろ
とかりそる。ぺてろもあたちゐ〜〜のかれよいひてゐれをりいまだ
ゐうぐるのさきゐんぢえたびゐれをきらだといたんとをとのエたを
おのひいぐ〜て。(六十二)つゐよいぐ〜いさこそく〜たり。
(六十三)ゐそをからゐおくのゐれぞゐさありてこれをうう。(六十四)それ日を
おそひてつらをさきて さひていたくうふゐりてゐんぢをううゐれ
されぞといふよ。(六十五)ぐうよおゐくのも〜とゐてかれをそ〜ゐさう。
(六十六)日のはがりてもあたちさこれらうきゐやまりつうきのゐ〜らぐく
きゐやぞもとまかゐつまりてゐそをひきておわやけかいさりて。(六十七)いたく

ゐんぢくれもをさらだゐれよはげよ。(六十八)いひあたくはきゐんぢう
よはげれぞゐんぢうゐんぢうよをぞゐゐんぢうこたんだ
きさはれをゆるさだ。(六十九)仏はちゐんぞんのひすをさいきわひゐる非の
まぎりよざせんとは。(七十)まかいたく きあらだもあたちゐんぢ非の
ひすをういひあたくゐんぢうはきなりをといふよ。(七十一)のろ〜くのいたく
ゐんをさらよまやうこをのちゆるやあのれがくちよりはれうまぐうう
これをきく。

第二十三章

(一百)のろ〜くあきてゐそをひきてぴらをがきゐよりて。(二)
これようゐんぢ〜ていたくはれう仏人ゐのよをまだら〜て
まらぎをとうへされよをさゐるときんぢてあのれをくれもをさう
すをといふよ。(三)ぴらをゐそをさひていたくゐんぢよさぐちのすをういひ

ゐんぢらこれをいふ。四ぴらとまりはなさのうゝらとたゝとゐ
いひていたくゐれひ人をあるゐはゝ寺。五のろゝたげゝく
よびていたくかきさゝをあるひうぐあゝのまねくよでやゐゝ人
ゝゝそがゝをよりそゐいたる。
六ぴらとへがゝをといふをとをきてもあたちこれがゝの人うとゐ。
七むぐふへろでおゝあらるゐぞくもるをとろてもゐたちへろでがまくふ
やろうさきふへろでゐるされんゐる。八ゐそをとゝれべもゐんぐよろ
こぶけだゝひさゝくこれをあんとろゝておわくそれををきて
てんどたるをゐををあんとはぞおゐよゐてなり。九ゐゐおわく
むゝをとこれゐをひてかれへなるゐもこゝだ。十まりはなさのかゝら
ぐくあやぞもとさらてゐあうゝてかれをうくゐゆるをもあんだゝ。

十一へろでとぶゝぞもとゐそをのぐあきのゐどりてきするゐいろどり
こゐのをのふてゝきぴらをゐゆる。十二ぴらとへろでとのをろのひ
のぐゝそれ日はるゐのひわろゆうぞ。
十三ぴらをへまりつゐさのかゝらとつゐさどりとゝをとをよびのゐあて
いんく。十四ゐんぢらひ人をゐぐきゐゐひきてゝををゝらをのれと
いふかゐてゐれゐんぢらかれをうくゝゐるのををゐんぢらがのく
ぞんゐはまびらゐふゝいまぐそれはをあるををゐだ。十五へろでよきさ
ゐりけだゝゐれゐんぢらをへろでがきゐゐゆりてかゐてゐるゐる
ホのゐるをひとろもゐそゐせられざる。十六ゐはきもあたちかれをおち
うてゐゐうゝてゆるさん。十七それせろくゐはりゐのゐりてかゐんだ
一人ゝをゆるをべ。十八のろゝくひをゝくよびていたくホ人をろ

〜てバらバとゆる世よ。それかれバらバハもろのうちヨまだれと
ヨ〜て人とそろもゆヨよらうゆヨいれられ〜う。ぴらと云そと
ゆるさんとわろ〜てきさめろ〜〜ヨめれよ。ためろ〜〜よびて
いたくもろめんどのもりふそれをつけよもろめんどのもりふそれをつけ
よ。ぴらとぶいさんどこれらふりひていたくヨんのわ〜きとをおとヨひ
たるやいまぐそれるざいめるとえバゆヨもとおちうろヨうろ〜て
それをゆるさん。めろ〜〜いろ〜〜たろぐ云〜てそれもろめんどのもりふ
つけんとをめとむさき合とまろうつるさのう〜らとのこくきろうさう。
そヨおうてぴらと云〜ろちうめとるゆがぐくヨせんと。ぐ巳
ろもとのゆヨらうゆヨいれられ〜さきヨめとあさるのめのを
ゆヒて云そとゐれらがきヨよろもと。

云そとひきゆくのときけれれ人をめんのりてむらより きたる
さき それをわぎりてもろめんどのもりを云そのう〜うヨかぐび
させさり。さきのおひかるおらがりてれふもたぐひておわくのおんる
のりてこくもてもろもてゐヨむ。云そそれらをくりきていひたくく
云ろされんのおすめぐちゐらぐさろヨうくとヨくしてさがのれが
れが子ものさろヨうけよ。日きたりて人かヨぐびいよ へいろも
ぐびおんるいろも子をうまぐびもらいろもきもせざるちんぐび
。ときホ人ゆヨヨおひて見がうふおちをろホおちろひて
よといんんとも。けぐ〜本のをヨぐらヨれくくのとぐ〜
かるれバもさいヨヨせん。きさぐろヨふたりのおんにめのを
ゆそ云そとおヨぐくそろさんとも。

明治學院 MEIJIGAKUIN LIBRARY

三十三 ひとつのちゑと名人のさまのさらといふよりてそふそれをおう
のんどのむりよりはけるふさうのおもをものをもひとりへまぎり
三十四 ひとりへひだりかも。あそのいひあらんくえくかれらおのれがなを
ところをそんびとれをながめたまへよ。人かれのこころのをとりてくちを
三十五 さる。さて さらて アるはなさぎりぎももおもどくかれをあざけりて
いたくかれのが〜人をもをくんれもとたり非のそらぶのごき
三十六 へおのれをもをんで。はそのれぎももきこれよたんおれてもを
三十七 のそのさるかも。いたくうんぢよりさざちのすてうらびおのれをもをん
三十八 よ。かれのうんよいたれふざのりてへそれろまやらいどをうきてこれ
よさぶちのはうさるといふ。
三十九 おあどくみらるふさりのおもをものの一人ンこれをはく〜りていたく

うんぢんれもをさらびおのれをもはれらをもをんよ。四十 それ二番め
これをせめていたくうんぢおもはそをうけてうんそ非をおそれざらん
四十一 や。はれらへのうをもけだ〜はれらがうけるへはれらがおそあんよ
のたれりさん人のやまりどなあもなさび。四十二 いはそよいひて
四十三 いたくきそうんぢがんかいたれをおれらはれをおのんよ。四十四 あそのいひあらんく
はれきそをようんぢよはげんけうんぢかあらび はれとあるよびく
らくのうちよあらんとも。
四十四 よひるよりひだりのそんるきでのまれくんよかすあよ〜て 四十五 日も
きさんらくてられそあれはうさるさける。四十六 あそさあきそん〜てよんひ
ていひあたくよゝうんぢのまこよはうがさま〜ひをあげん。いひ
四十七 そんりていきそんあひけりとうん。百はへのく〜らなをそこをを

あく さまりを非ようかて ていそく それ さまりようぎ なる人そ。
四十八 仏 ゆやうと あんとのつまるのさまなく さるとを あて ひねを さきて ちかう〜て かる。四十九 かれののひ ちるのれ とげき ようつれ ちなぶ ひん
ゆぶもとをわく さちて はそさ ある。
五十 人のりて名へよせふ ぎんさ さちらひ人 さるとぎんぎ。五十一 の〜きちり
ごと おさちひ ようけぶんび よさぶちのの そまさひ ひらよ ぞくは
のとより非ようを ちんひ きつのれ。五十二 いやて ぴらとを きさ多て ちそ
の ちねをのとむ。五十三 これをとり ひう〜て はむようのんとのて〜て
い〜わうせ〜 はちいまぶ人わうひらざるのところよ きさり。五十四 それ
日そあへせちいさ日ちうよりさり。
五十五 ぶつを より ちそとあぶ〜くきちり〜ひんなぶもようふちなぶひ

て それ はちひうひ かねれいあよとをきさるを ある。五十六 かやて みわひ
ちあとくうゆくとをそあそいまぶ〜れとりそれいふ用ホいふ。
第二十四章　一節 七日のむじめの日いあれめ ひんなぶもへつあよいなやて
そあるとところれ ひわひ ちあを さぶさそきさ ようぶ〜ぶも ひあぶく
あり。二 い〜のはちよりてんぶ ちあきれさるを ある。三 いりく ひう〜ち そ
の ちねを あんび。四 まさよ ひ ゆうよ ひあひ うぶくのの ひぶ あんう ちか
ちあちりのりてちあく さちていあくへひちりちやく。五 ひんなぶちひあぶちき
て はよ うふぶせび ちありへこれらよいひていたくちんそあよのの
うちいきるののを えぶねるや。六 れもぶよいきぶく さりそよそらび。
ひあ名よなかがまよ ちるときかれちんちりよかちりく。七 みんぶんの
ひすとかあふび はきびとのまよ あれ ちう めんぶのむりよ

はけられ三日よいきぶるとのいふことを。八あんなぎもこれのことをあるひおがみさう。九はつようかうそれ十一人おうびはるのれぎもよ仏ことをはげさう。十のなつつあひぎも小仏ことをつげるのの八よもやよされれよのんなとやこべがをよもやとおうびおるゞくもるべうおんなぎものり。十一かれらへそれらがことをのべてはあ〜きぎゐ〜とおあひてそんぜば。十二べてろつゐよおきそつろよ五〜りてゐとくあてのんれれぎゐりひとさろよさくとそんてな〜たるこのゆゑよそんげゐらのやゝそてくる。十三おゐゞ日それうちあたりひとつのはつ名へいまをもよゆくあるされんよう二十あも。十四あたりのふとろれのろ〜くのこをのひろんも。十五ひこそ人もるのひぎゐそちゐげきそおゐゞくゆく。十六たかれらの日さそんりてそれをおらば。十七ゐもの心ひろたくゐんぢらゲゆくよさひこそうれひゲれのるへゐんをや。十八それひとり名へけもうぢこそいたくゐんぢひとりゐるされんよのりてたび〜てちゐき日よな〜たるこをおらばや。十九ひひろたくゐよこをう。いたくゐざれの人ゐそさきそるのれたり非とたこ人きとのきふのりてこべとおこゐるひといきわひのり。二十そもきんりつろさのか〜らこれらゲつろさぎりぎもとかれをゐた〜てゐるざをさがりてぎらのんゞのもをよつけたり。二十一たゐこれらのとよりは人いまらゐもとゐひのぶもものれたらんとはそこたりそれうこをゐ〜たるよりは三日ゐる。二十二それきさゐこれらがうちゐゐのおんなゐれらをおぎろをゐれらいゐれめつろよゆきそ。二十三それかぶれをゐば〜てきたりてつげていたく

天のつゆひのあらたれるを人そ多そきいきるとゆのれ。二十四これらと
ちあゆきるのくに人つゆゆきて木たな〜て人なぞものひたるゲ
どくふめやてたる多そと人に。二十五多そのひ人ちたくのそうめへなき
さてきちるのろ〜くのひたるをんぎるゆ心おそきのれゥ。
二十六くれもとひをきかうけてちろ〜てさろうゆきむへのふよろ〜
ゥらざゆんや。二十七そゆおてもせよりもじやておよびのろ〜のさき
ちるきやて種ゆおのれをゆびさんををとくくゥれらふさ〜ゥふ
きく。二十八ゆくきそろのゆらゆちゲびゲび多そるれきゆゆんとわうきる
がどくゆ〜たり。二十九ふたりこれをちひていたくヨかたぶきてよゆゆ
ちろ〜そんくへおゆどきりたまへ多そつゆふひやてきぞまらんとき。
三十ろゆ〜ろゆざきものひぶのちをきをていたひて見やてかれらゆのたへ

ろゆ。三十一ふたりの目ひらきて きるゆんちこれをちるたちきちゆきゆて
きゆ多ど。三十二ふたりのひつげていたくきちとわりゆれらとおふものひて
種をとくのときゆれらがひのゆゆけざらんや。三十三きるゆんちおきたちて
多るされんゆかゆて十一で〜とつれのものとあつまるをんて。
三十四ゆ〜むさ〜ていきが多てきのんゆのらたれたりとゆのをふさろ
きまさぶちちゆのゆきそろおろびのちをゆるゆかれらゆそろる
をとをゆゆ。
三十六ゆのひぶ多そきぶらそれらがうちたちていひゆたくゆんちゆ
のん。三十七で〜ぶもおぶろきおそるんたるときろたきゆ〜ひとうぶ。多そ
のひひゆたくゆんちゆひぶらひてそろゆおひかけるへゆんそや。
三十九ゆまの〜をんちきゆたちゆれりきさなぶきさんちさまゆ〜ひ

へころゐくなるべきなんぢらこれをきくものはみな
のゝしりとのゝそかれらはなほいはく。四十一でゝぞもよろこびのやゝこゝになれ
ちんぜざるうちなほそのいひたまくくしかのものやと。四十二のげるうをとこう
ぢちのほとひとりさをかれふのこと。なほかれらがまへふのまへにをそれて
それをこゝる。四十三いひたまくもせのはりさきるぞもうこゝ種とは
これをゆびさゝしてかきるゝこゝるとこゝかるらびこゝろうこゝかるる
とこゝなれなんぢらとこゝはゝ。たるこゝきもぐはゝこゝをいひ
たり。四十四つゐはかれらがさゝちをひらきてもぐその種をさをして。
四十五いひたまくかくのごとくかきるせりきさかくのごくくれもを
ぐとうけて三日ゝしてゐかのものぞもよりいきぐるへのされり。
四十六のつそその名をこゝきてこゝこゝのらこゝつゝをゆるもをのぐうを

はたらくるべゝなるされんよりもぐめそきんぐくかいなるきで。四十八なんぢら
もぐそ仏ゝこのこゝうこゝ人とは。四十九かうこゝうかかこれもこゝ父のゆく
そくもゝめをのそなんぢらはこゝうのこゝうはうこゝよりなんぢらなるされん
きそ。五十
なそこれらをひきそゝされはいなりてまをのげてこれらをいたび
かこゝ。五十一いたふこゝきかれらよりもきされ天はかせられかこゝ。五十二のこゝく
これをもゝゝもあもぐこゝろぐそなるされんはかりそつねふてらふ
のこゝ弟をいたびかめたり

路加傳福音書終